



Sun Fire™ X4500/X4540 サーバー Windows オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5999-10
2008 年 7 月、改訂 A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布にはサードパーティで開発された素材が含まれている可能性があります。Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Sun Fire X4500 サーバー、および Sun Fire X4540 サーバーは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。

この製品は、米国の輸出規制法の範囲であり、同法により規制されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律による規制を受ける可能性があります。核、ミサイル、化学生物兵器、または海洋における核のエンドユーザーは、直接または間接を問わず、厳しく禁じられています。米国が通称を禁止している国、または米国輸出除外リストに掲載されたエンティティ (拒否対象人物および特別に指定された国家を含むがこれに限定されない) に対する輸出または再輸出は、厳しく禁じられています。米国輸出法に準拠して輸出された製品では、予備または代替 CPU の使用は、修復または 1 対 1 の CPU の交換に限定されます。米国政府に承認されない限り、CPU を製品のアップグレードとして使用することは、厳しく禁じられています。



リサイクル
してください



目次

はじめに xi

1. 概要 1

Windows Server のインストール 1

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 3

Sun Installation Assistant (SIA) を使用した補助付きインストール 4

 SIA Media の入手、アップデート、およびドキュメント 4

手動インストール 5

2. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7

3. 取得方法の選択 9

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 9

Windows Server 2003 配布メディアの取得方法の選択 11

4. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備 13

フロッピーディスクの作成 13

 ▼ Sun Fire X4540 サーバー用にフロッピーディスクを作成するには 14

 ▼ Sun Fire X4500 サーバー用にフロッピーディスクを作成するには 16

フロッピーイメージファイルのコピー 18

- ▼ フロッピーイメージファイルをコピーするには 19
- 5. JavaRConsole システムの設定 21
 - JavaRConsole システムの要件 22
 - JavaRConsole システムのセットアップ 22
 - ▼ JavaRConsole システムをセットアップするには 22
- 6. Windows Server 2003 のインストール 27
 - インストール要件 27
 - オペレーティングシステムのインストール 28
- 7. 重要なサーバー固有ドライバのアップデート 37
 - Disk Control and Monitoring のプリインストール要件 (X4500 サーバーのみ) 38
 - サーバー固有ドライバのアップデート 39
 - ▼ サーバー固有ドライバをアップデートするには 39
 - 追加ソフトウェアのインストール 43
 - ▼ 追加ソフトウェアをインストールするには 44
 - 追加ソフトウェアの追加情報 45
 - Disk Control and Monitoring (X4500 サーバーのみ) 45
 - Intel NIC Teaming の使用 (X4500 サーバーのみ) 45
 - ▼ Intel NIC Teaming の構成設定にアクセスするには 45
 - NVIDIA Forceware Network Access Manager (X4540 サーバーのみ) 48
 - 一般要件 49
 - NAM のインストール 50
 - NAM Web インタフェースの起動 50
 - NAM の詳細について 51
 - IPMItool インストールの完了 51
 - 要件 52
 - ▼ Microsoft の IPMI System Management ドライバをインストールするには (Windows Server 2003 R2 SP2) 52

8.	Sun Fire ドライバの RIS イメージへの組み込み	55
	必要なドライバの確認	55
	Sun Fire X4500 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加	56
	開始前のご注意	56
	▼ RIS イメージにドライバを追加するには	56
	Sun Fire X4540 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加	58
	開始前のご注意	58
	▼ RIS イメージにドライバを追加するには	58
9.	Disk Control and Monitoring (X4500 サーバーのみ)	61
	概要	62
	DCM の起動	62
	情報の表示	64
	DCM で使用されるアイコン	66
	メニューとツールバー	68
	Disk View (ディスクビュー) のコマンド	69
	File (ファイル) メニュー	69
	View (表示) メニュー	70
	Manage (管理) メニュー	71
	Add Disk (ディスクの追加)	72
	Remove Disk (ディスクの削除)	72
	Reactivate Disk (ディスクの再アクティブ化)	73
	Rescan (再スキャン)	74
	Remove Preview (削除のプレビュー)	74
	Locate Disk (ディスクの検出)	75
	Stop Locate Disk (ディスクの検出の停止)	75
	Stop Locate All (すべての検出の停止)	75
	Create Volume (ボリュームの作成)	76
	Sync FRU (FRU の同期)	77

Disk View (ディスクビュー)の右クリックによる Manage (管理) メニューの表示	78
Window (ウィンドウ) メニュー	79
Help (ヘルプ) メニュー	79
Volume View (ボリュームビュー) のコマンド	80
File (ファイル) メニュー	80
View (表示) メニュー	81
Manage (管理) メニュー	81
Rescan (再スキャン)	82
Delete Volume (ボリュームの削除)	82
Locate Volume (ボリュームの検出)	83
Stop Locate Volume (ボリュームの検出の停止)	83
Stop Locate All (すべての検出の停止)	84
Volume View (ボリュームビュー) の右クリック Manage (管理) メニュー	84
Window (ウィンドウ) メニュー	85
Help (ヘルプ) メニュー	85
制御されていないディスクの挿入および削除	86
DCM 遠隔クライアントのインストール	86
DCM 遠隔クライアントウィザードセットアップ	87
遠隔クライアントのサンプルスクリプト	90
各サンプルスクリプトの変更	90
▼ リモートスクリプトを実行するには	91
DCM リモートサンプルスクリプト	92
DCM クラス	94
CDCMService	95
getNumDisk	95
getDisk	95
getNumVolume	96
getVolume	96

init	97
scan	97
getDiskAtSlot	97
getSlotLEDStatus	98
getStatusChange	98
CDCMDisk	99
getDiskNum	99
getPhysicalLocation	100
getCapacity	100
getStatus	100
getType	101
getUnallocated	102
locate	102
getFRU	102
getBMCFRU	103
getDiskImp	103
getNumExtent	104
getExtent	104
syncFRU	105
getPartitionType	105
getDiskGUID	106
CDCMBasicDisk	106
add	106
CDCMDynamicDisk	107
remove	107
reactivate	107
CDCMForeignDisk	108
importToPack	108

CDCMUnInitializedDisk	108
add	109
CDCMDiskFRUInfo	109
vendor	109
model	110
serialNum	110
FWVersion	110
capacity	111
CDCMDiskExtent	111
getVolumeNum	111
getOffset	112
getSize	112
CDCMVolume	113
getType	113
getPath	114
getFileSystem	114
getStatus	115
getSize	115
getFreeSpace	116
getNumExtent	116
getExtent	116
getVolumeImp	117
getVolumeGUID	117
getHealth	118
CDCMBasicVolume	119
getPartitionType	119
CDCMDynamicVolume	119
getVolumeType	120

isFaultTolerant	120
IsOnline	121
deleteVolume	121
CDCMVolumeExtent	121
getDisk	122
getSize	122
CDCMCreateVolumeIntf	123
addAccessPath	123
addInputDisk	124
create	124
init	125
setFormatInfo	126
索引	129

はじめに

本書には、Sun Fire X4500 または X4540 サーバーへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール手順が記載されています。

関連ドキュメント

Sun Fire X4500 または X4540 サーバーのドキュメントセットは、以下の URL の Where To Find (入手場所) ドキュメントに記載されています。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/x4500>

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/x4540>

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、および日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

すべての Sun 製ハードウェア、Solaris、およびその他のドキュメントについては、以下の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または嫌疑的な損害や損失についても責任を負いません。

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm filename と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4500/X4540 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-5999-10

第1章

概要

この章では、Sun Fire X4500 または X4540 サーバーに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server のインストールを開始する前に、章の以降の部分に必ず目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- [1 ページの「Windows Server のインストール」](#)
 - [2 ページの「インストールに関する重要な考慮事項」](#)
 - [3 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」](#)
 - [4 ページの「Sun Installation Assistant \(SIA\) を使用した補助付きインストール」](#)
 - [5 ページの「手動インストール」](#)
-

Windows Server のインストール

Sun Fire X4500 および X4540 サーバーには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムには含まれていない外部ストレージドライブが必要です。

本書の以下の章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール方法について説明します。このインストール手順は、32 ビットと 64 ビットの両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Fireサーバーへの Windows Server オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、ブートドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時の第一の考慮事項は、大容量記憶装置ドライバをディスクコントローラに提供することです。Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。
- Sun Installation Assistant を使用して Windows をインストールする場合は、すべての必要なドライバがインストール時に提供されます。SIA では、ローカルまたはリモートの CD/DVD を使用して、Windows をインストールすることができます。SIA の詳細については、4 ページの「[Sun Installation Assistant \(SIA\) を使用した補助付きインストール](#)」を参照してください。
- Microsoft Windows インストールメディアを使用して、Windows を手動でインストールする場合は、Windows Server 2003 では、大容量記憶装置ドライバをフロッピーディスクから取得する必要があります。Windows Server 2003 のインストールプログラムでは、フロッピーディスクからのみ、大容量記憶装置ドライバを読み込むことができます。
- 手動インストールの場合、Windows Server 2003 のインストール用の大容量記憶装置ドライバを取得するには、次の 3 つの方法があります。
 - Sun Fire サーバーに物理的に接続された USB フロッピードライブを使用します。
 - リモート KVMS (リモートキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ—ネットワークシステムを介してサーバーキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクションが可能) を使用して、JavaRConsole (JavaRConsole システム—ネットワークシステムから実行されるリモートコンソール) をホストしている別のシステム上の物理フロッピードライブにフロッピーをリダイレクトします。
 - リモート KVMS を使用して、JavaRConsole をホストしている別のシステム上のフロッピーイメージファイルにフロッピーをリダイレクトします。
- 手動インストールの場合、インストール用 Windows Server 2003 配布メディアの取得方法も以下のように 3 つあります。
 - Sun Fireサーバーに物理的に接続された CD/DVD ドライブを使用します。
 - リモート KVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD/DVD ドライブに CD/DVD ドライブをリダイレクトします。
 - KVMS を使用して、JavaRConsole システム上の Windows CD/DVD イメージに CD/DVD ドライブをリダイレクトします。

- Windows Server 2003 を実行している Sun Fire X4500 または X4540 サーバーの場合、Windows のディスクマネージャが RAID ディスクボリュームを設定して管理します。Windows のディスクマネージャの詳細は、以下の URL にアクセスしてください。

<http://support.microsoft.com/kb/816307>

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/2c4910c6-1b83-40e5-810a-023993aa8b941033.msp>

本書に記載されているインストール手順に従うと、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

注 – どのインストールでも、RKVMS の方法を使用する場合は、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細について、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User’s Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188)を参照する必要があります。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Fire X4500 または X4540 サーバーは、以下の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次のサーバー固有の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/os.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4540/os.jsp>

注 – Sun にはオプションの Disk Control and Monitoring (DCM : ディスクの制御と監視) ユーティリティーがあり、これは、Sun Fire X4500 サーバーのディスク管理に役立ちます。DCM を使用するには、Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 R2 SP2 をインストールする必要があります。

Sun Installation Assistant (SIA) を使用した補助付きインストール

Sun Installation Assistant (SIA) は、x64 Sun Fire および Sun Blade サーバーでの使用がサポートされているツールです。このツールは、サポートされている Linux および Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステム (OS) のインストールを補助します。SIA を使用すれば、SIA メディアを起動してプロンプトに従うだけで、OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加システムソフトウェアをインストールすることができます。

SIA は、OS のインストールプロセスを自動化するわけではありません。OS のインストール手順になお従う必要はありますが、システムハードウェアの目録処理、Sun がサポートする最新のデバイスドライバのダウンロード、および別のドライバ CD の作成を行う必要がなくなります。これらの作業は SIA によって自動的に実行されます。

SIA Media の入手、アップデート、およびドキュメント

Sun Installation Assistant の CD/DVD は、x64 プロセッサアーキテクチャーをサポートする Sun 製サーバーに付属しています。サポートされている Sun サーバークラウドプラットフォームの全リストについては、以下の URL の SIA 情報ページを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

また、以下の URL の Sun Download ページから、Sun Installation Assistant の ISO CD イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

SIA プログラムのアップデートは、SIA の Remote Update (リモートアップデート) オプションを使用することにより、SIA インストール時に簡単に取得できます。

SIA の使用方法を説明したドキュメントは、以下の Sun ドキュメント Web サイトにあるご使用のサーバーの残りのドキュメントでご利用になれます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/server.x64>

手動インストール

この方法は、1 つ以上のサーバーで、Microsoft Windows Server 2003 をローカルまたはリモートで手動インストールしようとしている、より上級のユーザー向けです。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、第 9 章の [55 ページの「Sun Fire ドライバの RIS イメージへの組み込み」](#) を参照してください。

CD メディアからサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合は、次の手順を完全に実行します。

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#) (2 章を参照)。
2. [取得方法の選択](#) (3 章を参照)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備](#) (4 章を参照)。
4. [JavaRConsole システムの設定](#)。遠隔コンソールから Windows をインストールする場合にのみ必要 (第 5 章を参照)。
5. [Windows Server 2003 のインストール](#) (6 章を参照)。
6. [重要なサーバー固有ドライバのアップデート](#) (7 章を参照)。

この手順を完了すると、Windows Server オペレーティングシステムが正常にインストールされます。

第2章

サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – ツールとドライバの CDがある場合は、この章をスキップして、[第3章](#)に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。最新バージョンのツールとドライバの CD は、[Sun ダウンロードサイト](#)でダウンロード可能なイメージとして入手できます。

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. ご使用のサーバーのドライバダウンロードサイトに移動します。
<http://www.sun.com/servers/x64/x4500/downloads.jsp>
<http://www.sun.com/servers/x64/x4540/downloads.jsp>
2. 以下のいずれかのダウンロードオプションを選択します。
 - Windows Server 2003 のメディアを使用してインストールする場合は、Windows.zip をハードドライブの場所またはインストール時にアクセス可能なメディアにダウンロードします。Windows.zip に含まれた以下のサブパッケージを展開します。
 - FloppyPack_x_x_x.zip (Sun Fire X4540 用の LSI 統合ディスクコントローラドライバ、または Marvell Serial ATA Gen 2 PCI-X Adapter ドライバおよび Sun Fire X4500 用 AMI 仮想ドライバが入っています)。このパッケージを使用して、Windows Server 2003 インストール用のドライバメディアを作成します ([第3章](#)を参照)。
 - InstallPack_x_x_x.exe (Windows Server 2003 のインストール後にサーバー固有のデバイスドライバをアップデートするプログラム)

- DriverPack_x_x_x.zip (上級者向けの Windows Server のサーバー固有のドライバアーカイブ (英語版))。第 9 章の [55 ページの「Sun Fire ドライバの RIS イメージへの組み込み」](#) で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。
- OptPack_x_x_x.zip (上級者向けの追加ソフトウェアアーカイブ)。追加ソフトウェアを PXE インストールに組み込む場合には、このファイルをダウンロードします。
- PXE サーバーを使用して Windows Server をインストールする場合 (上級者向けインストール) は、DriverPack_x_x_x.zip ファイルの内容を PXE サーバー上で展開します。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: FloppyPack_1_1_4.zip)。

3. オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。[第 3 章](#)に進み、取得方法を選択します。

第3章

取得方法の選択

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順を実行します。

1. 大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択。
2. Windows Server 2003 配布メディアの取得方法の選択。
3. 選択した取得方法をメモしてから、第4章に進みます。

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

環境要件に合った Windows Server 2003 インストール用の適切なドライバの提供方法を表 3-1 から選択します。選択した方法をメモしておいてください。

注 – Windows Server 2003 をインストールする場合は、以下のいずれかの方法を使用して、インストール時に大容量記憶装置のドライバを指定する必要があります。

表 3-1 Windows 2003 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーディスクローカル：サーバーの背面上部にある USB ポートに直接接続された、物理 USB フロッピードライブを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> 以下の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows」*としてリストされている外部 USB フロッピードライブ： http://www.windowsservercatalog.com/marketplace/ フロッピーディスク 	簡単
フロッピーディスクリモート：リモート KVMs を使用して、JavaRConsole をホストしているシステム上の物理フロッピードライブにリダイレクトします。	<ul style="list-style-type: none"> Sun Fire サーバーのネットワーク管理ポートとその接続フロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム フロッピーディスク 	中レベル： インストールにかかる時間は、フロッピーディスクローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ：リモート KVMs を使用して、JavaRConsole をホストしているシステム上のフロッピーイメージファイルにリダイレクトします。	<ul style="list-style-type: none"> Sun Fireサーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム フロッピーイメージファイル 	中レベル： インストールにかかる時間は、フロッピーディスクローカルの方法よりもわずかに長くなります。

* Windows 専用の USB フロッピードライブを使用しないと、OS のインストール時にドライバがインストールされたように見えても、システムのリポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライバを再度見つけることができず、エラーメッセージが表示されてインストールに失敗します。

Windows Server 2003 配布メディアの取得方法の選択

環境要件に合ったサーバーへの Windows インストール用 Windows Server 2003 配布メディアの提供方法を、表 3-2 から選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 3-2 Windows Server 配布メディアの取得方法

Windows OS メディアの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル : Sun Fire サーバーに接続された外部 CD/DVD ドライブを使用します。	以下の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows」*としてリストされている外部 USB CD/DVD ドライブ : http://www.windowsservercatalog.com/marketplace/	簡単
Windows リモート : リモート RKVMS を使用して、JavaRConsole をホストしているシステム上の物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。	Sun Fire サーバーのネットワーク管理ポートとその接続 CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル : インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ : リモート RKVMS を使用して、JavaRConsole をホストしているシステム上の Windows メディアイメージに CD ドライブをリダイレクトします。	Sun Fire サーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル : インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

* Windows 専用の USB フロッピードライブを使用しないと、OS のインストール時にドライブがインストールされたように見えても、システムのリポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライブを再度見つけることができず、エラーメッセージが表示されてインストールに失敗します。

第4章

大容量記憶装置ドライバ取得の準備

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。

第3章で選択した方法に応じて、この章で説明する次のいずれかの手順に従います。表4-1を参照してください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	手順記載セクション
フロッピーディスクローカル	13 ページの「フロッピーディスクの作成」
フロッピーディスクリモート	13 ページの「フロッピーディスクの作成」
フロッピーイメージ	18 ページの「フロッピーイメージファイルのコピー」

フロッピーディスクの作成

フロッピーディスクローカルまたはフロッピーディスクリモートの方法で取得する場合は、Windows Server 2003 のインストールを続行する前に、大容量記憶装置ドライバを保存したフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム構成および素材が使用できる状態にしてください。

- フロッピードライブを搭載したシステム
- フロッピーディスク
- ご使用のサーバー用の最新のツールとドライバの CD、または FloppyPack_x_x_x.zip (FloppyPack_x_x_x.zipの取得方法の詳細については7ページの「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」を参照)。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: FloppyPack_1_1_4.zip)。

▼ Sun Fire X4540 サーバー用にフロッピーディスクを作成するには

Sun は、Windows Server 2003 のインストールに必要なフロッピーディスクの作成を支援するウィザードを用意しています。Sun Fire 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードは、以下のいずれかの方法を使用して起動できます。ご使用のサーバーのツールとドライバの CD のメインメニュー、または mkfloppy.exe のウィザードから。それぞれの方法の手順を以下に説明します。

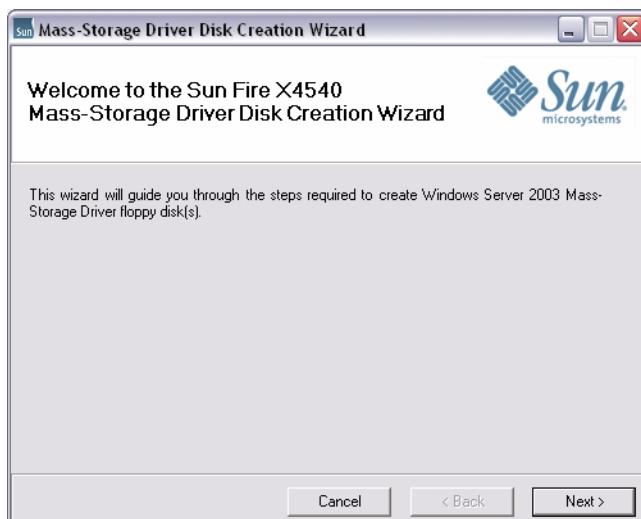
1. Sun Fire 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを、以下のいずれかの方法を使用して起動します。
 - ツールとドライバの CD を、CD/DVD ドライブを搭載した Windows システムに挿入します。CD が自動で起動します。メインメニューで、「Make a Windows Server 2003 Mass Storage Driver Disk (Windows Server 2003 用大容量記憶装置ドライバディスクの作成)」をクリックしてから、[手順 2](#)に進みます。
または
 - FloppyPack_x_x_x.zip を Sun ダウンロードサイト ([7 ページの「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」](#)を参照) からダウンロードした場合は、以下の手順に従って、ファイルをコピーして展開します。
 - i. Microsoft Windows ソフトウェアを実行している、フロッピードライブを搭載したシステムで、FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - ii. Windows エクスプローラを起動します。
 - iii. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - iv. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。
 - v. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- vi. ファイルを新しい (空の) フォルダに展開します。
- vii. Windows エクスプローラを起動し、展開したファイルが入ったフォルダに移動します。
- viii. Windows のエクスプローラで、展開したファイルが入ったディレクトリを開いて、mkfloppy.exe のウィザードをダブルクリックしてから、次のステップに進みます。

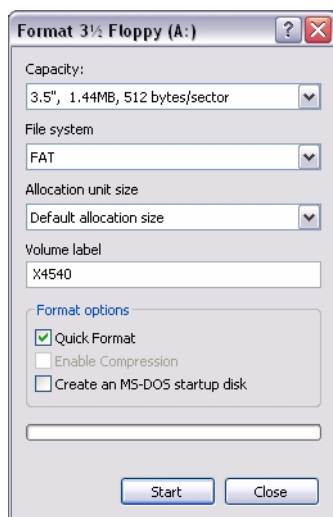
- 大容量記憶装置ドライバ作成ウィザードのようこそページ (図 4-1 を参照) で、「Next (次へ)」をクリックし、ウィザードの指示に従って、ご使用のサーバー用の大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクを作成します。
プロンプトが出されたら、空のフロッピーディスクをドライブ A: に挿入します。

図 4-1 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードページ



- 「フォーマット - 3.5 FD (A:)」ページ (図 4-2 を参照) で、「Start (開始)」ボタンをクリックしてフォーマットを開始します。

図 4-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ページ



4. フロッピーディスクのフォーマットが完了したら、「Close (閉じる)」ボタンをクリックします。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A)」ページが閉じ、大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードに戻ります。
5. 「Next (次へ)」をクリックして、ウィザードの指示に従って、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクの作成を完了させ、以下のいずれかを行います。
 - フロッピーディスクリモートの方法を使用してリモートから Windows をインストールしている場合は、第 5 章に進んで、遠隔コンソールをセットアップします。
 - フロッピーディスクローカルの方法を使用して Windows Server 2003 のインストールを開始するには、第 6 章に進みます。

▼ Sun Fire X4500 サーバー用にフロッピーディスクを作成するには

以下のように、フロッピーディスクドライブを搭載した Windows システムを使用してフロッピーディスクを作成します。

1. フロッピーの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
 - i. ツールとドライバの CD を、CD/DVD デバイスを搭載した Windows システムに挿入します。
 - ii. 次のディレクトリに移動します。

```
windows\w2k3\packages\FloppyPack
```

注 - ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

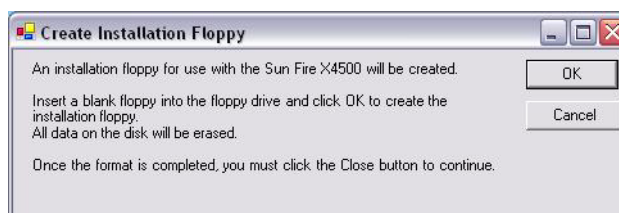
- iii. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、展開します。
 - i. Microsoft Windows ソフトウェアを使用中でフロッピードライブが搭載されているシステムで、FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - ii. Windows エクスプローラを起動します。

- iii. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - iv. FloppyPack.zip を選択します。
 - v. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。
使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
 - vi. ファイルを新しい (空の) フォルダに展開します。
2. Windows エクスプローラで、展開されたファイルのあるディレクトリを開き、mkfloppy.exe のウィザードをダブルクリックします。

注 – アプリケーションが起動しない場合は、mkfloppy.exe アプリケーションと同じフォルダにある README.RTF ファイルを確認してください。

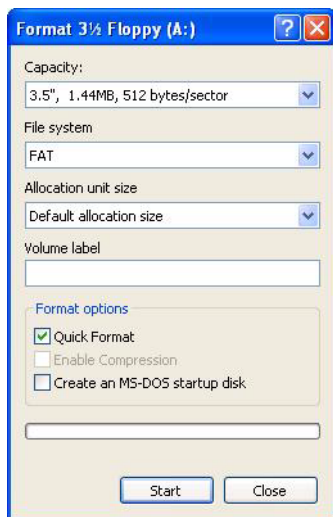
「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックスが表示されます。プロンプトが出されたら、空のフロッピーディスクをドライブ A: に挿入します。

図 4-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス



3. 「フォーマット - 3.5 FD (A:)」ページ (図 4-2 を参照) で、「Start (開始)」ボタンをクリックしてフォーマットを開始します。

図 4-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」 ダイアログボックス



4. フロッピーディスクのフォーマットが完了したら、「Close (閉じる)」ボタンをクリックします。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが閉じます。
5. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。その後、次のいずれかの手順を実行します。
 - フロッピーディスクリモートの方法を使用してリモートから Windows をインストールしている場合は、[第 5 章](#)に進んで、遠隔コンソールをセットアップします。
 - フロッピーディスクローカルの方法を使用して Windows Server 2003 のインストールを開始するには、[第 6 章](#)に進みます。

フロッピーイメージファイルのコピー

フロッピーイメージの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、この手順に従います。

まず、JavaRConsole システムでドライバファイルが適切に動作することを確認してください。このシステムは、[7 ページ](#)の「[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)」で説明されているように、ドライバのダウンロードサイトからダウンロードした、またはツールとドライバの CD (システムソフトウェアリリース 2.1 以降) に収録されている FloppyPack.zip ドライバパッケージにアクセスする必要があります。

▼ フロッピーイメージファイルをコピーするには

Windows システムを使用してフロッピーのイメージファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD を使用してフロッピーパッケージにアクセスする場合は、次の手順に従います。
 - i. CD を JavaRConsole システムに挿入します。
 - ii. 次のディレクトリに移動します。
`windows\w2k3\packages\FloppyPack\image`
完了後、[手順 2](#)に進みます。
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、展開します。
 - i. FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - ii. Windows エクスプローラを起動します。
 - iii. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - iv. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。
 - v. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- vi. 展開したファイルのあるフォルダに移動します。
 - vii. イメージフォルダに移動してから、次のステップに進みます。
2. インストール中に使用できる JavaRConsole システム上のフォルダに floppy.img ファイルをコピーします。
floppy.img ファイルの場所をメモに取ります。
3. フロッピーイメージの方法を使用してリモートで Windows をインストールする場合は、[第 5 章](#)に進んで、遠隔コンソールをセットアップします。

第5章

JavaRConsole システムの設定

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法を説明します。

注 – 第3章でフロッピーディスクローカル (Windows Server 2003 のインストールでのみ必要) と Windows ローカルの取得方法を両方選択した場合は、第6章に進みます。

- 第3章で説明されている、大容量記憶装置ドライバまたは Windows 2003 メディアを取得する次の方法のいずれか1つを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。
 - フロッピーディスクリモート
 - フロッピーイメージ
 - Windows リモート
 - Windows イメージ

注 – 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細については、ご使用の Sun Fire の『Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide (ILOM 管理ガイド)』を参照してください。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole が次の要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされています。
- Sun Fire サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されています。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされています。
- JavaRConsole システムが Solaris で実行されている場合は、JavaRConsole が物理に接続されたフロッピーディスクドライブ、CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムが Windows Server 2003 で実行されている場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。

JavaRConsole システムのセットアップ

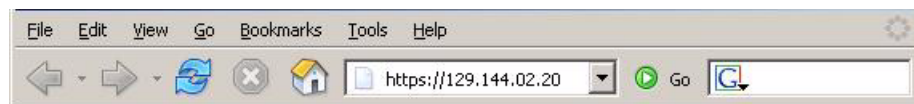
このセクションでは、Windows Server 2003 のリモートインストール時に大容量記憶装置ドライバを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法について説明します。

注 - この手順では、ご使用の Sun Fire サーバーの『Integrated Lights Out Manager (ILOM) Administration Guide (ILOM 管理ガイド)』の手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています。

▼ JavaRConsole システムをセットアップするには

1. Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

図 5-1 URL の例



「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

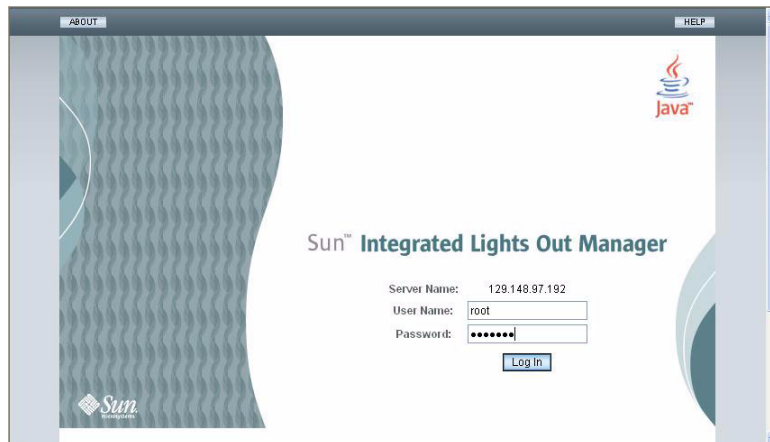
図 5-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス



2. 「はい」をクリックします。

ILOM のログイン画面が表示されます。

図 5-3 ログイン画面

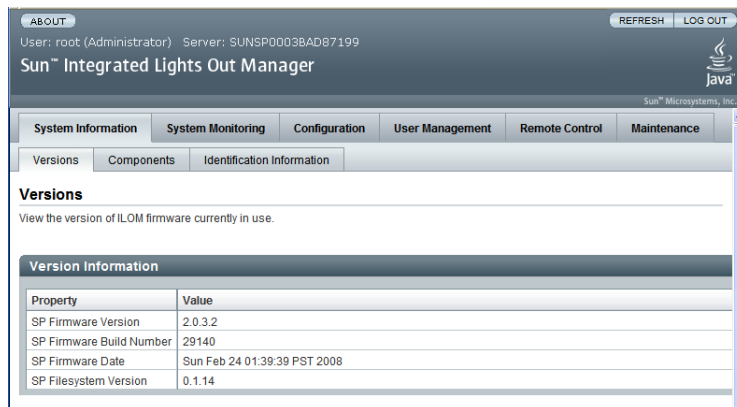


3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。

ILOM の「Version Information (バージョン情報)」画面が表示されます。

図 5-4 ILOM WebGUI インタフェースのバージョン情報画面

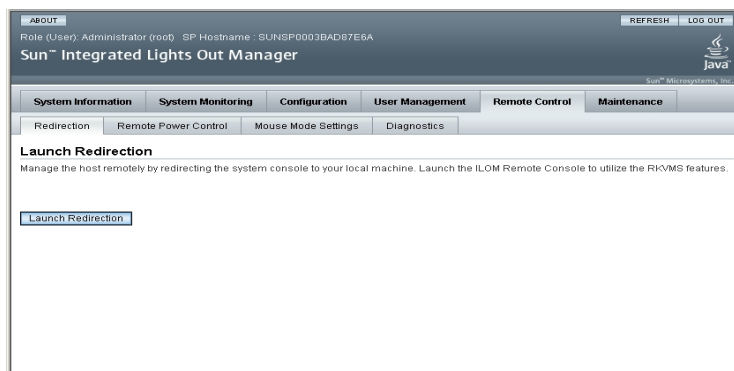


4. ILOM WebGUI で「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。

「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

注 – 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

図 5-5 ILOM WebGUI 起動リダイレクション画面



5. 8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーをクリックしてから、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

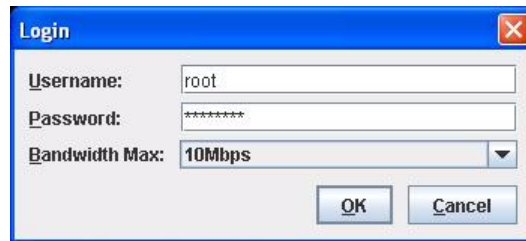
注 – JavaRConsole システムのリダイレクションに Windows を使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクションの起動)」をクリックした後に、警告がもう 1 つ表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。

図 5-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス



「Remote Control (リモートコントロール)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス

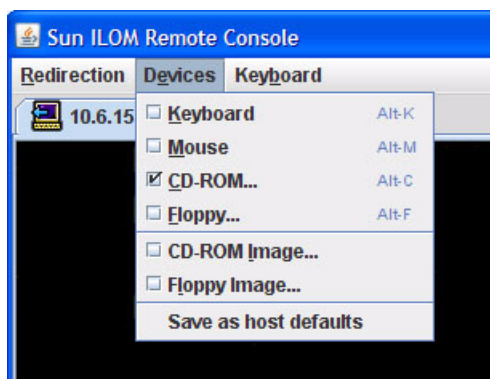


6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

図 5-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー



7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピーディスクまたは CD-ROM、またはその両方を選択します。
- フロッピーディスクリモート : JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
 - フロッピーイメージ : JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライブのフロッピーイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
 - CD-ROM リモート : JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD-ROM イメージ : JavaRConsole システム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

注意 – CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

第6章

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Sun Fire X4500 または X4540 サーバーに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章 (第 2 章から第 5 章) に記載されている手順をすべて実行しています。
- キーボードおよびマウスがサーバーの適切なコネクタに接続されていることを確認します。フロッピーディスクローカルの大容量記憶装置ドライバインストール方法を選択した場合は、USB ポートを必ず空けておいてください。
- Windows Server 2003 のインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows Server 2003 の全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。このセクションでは、Sun Fire サーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

その他、大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 メディアを取得してインストールする各方法に固有の要件は、[表 6-1](#) を参照してください。

表 6-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーディスクローカル	フロッピーローカルの大容量記憶装置ドライバインストール方法で使用するために、A: として正常に認識される、サーバーの背面上部にある USB ポートに直接接続された USB フロッピードライブに、大容量記憶装置ドライバフロッピーを挿入します。その他の USB ポートに接続すると、インストールでエラーが発生します。
フロッピーディスクリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクをフロッピードライブ挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Fire X4500 または X4540 サーバーに Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールします。

注 – Solaris オペレーティングシステムは、サーバーのブートディスクにあらかじめインストールされている場合があります。Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「[インストール要件](#)」のすべての要件を満たしていることを確認します。
2. サーバーの電源を切ってすぐに入れ直します。
BIOS POST プロセスが開始されます。

3. BIOS POST 画面に Press F8 for BBS POPUP プロンプトが表示されたら F8 を押します (図 6-1 を参照)。

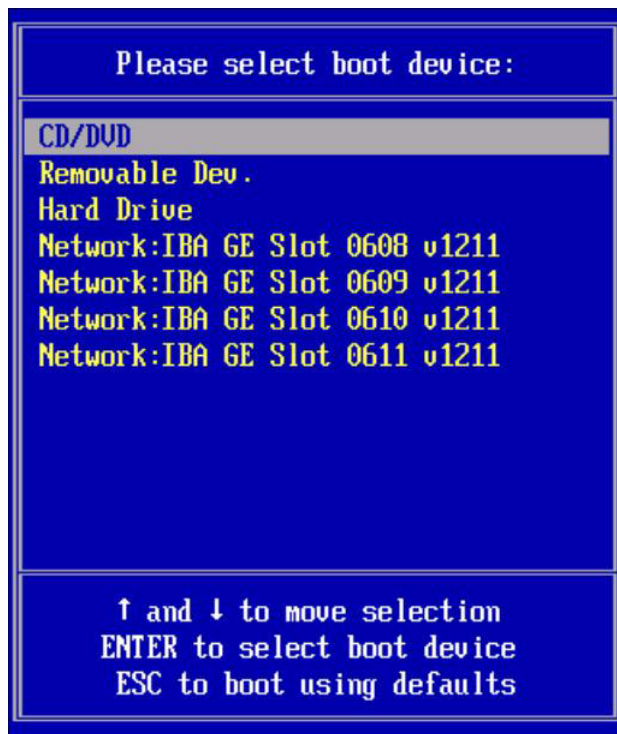
BBS POPUP メニューでブートデバイスを選択できます。

図 6-1 F8 のプロンプト例

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

4. BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (ブートデバイス)」メニューが表示されます (図 6-2 を参照)。Windows ローカルインストール方法を選択した場合は、ここでサーバーの CD/DVD ドライブに Windows メディア CD を挿入します。

図 6-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニューの例



5. ブートデバイスメニューから CD/DVD を選択して、Enter を押します。

「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows のセットアッププロセスが開始します。

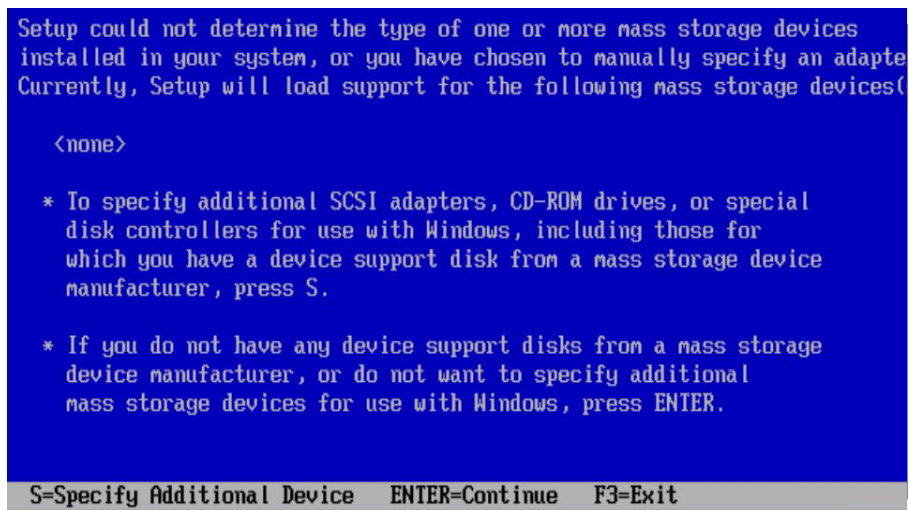
6. Windows セットアッププロセスで画面の下部に以下のプロンプトが表示されたら、F6 を押します。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver. (サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

注 – このプロンプトは、Windows セットアップの初期段階に表示されますが、約 5 秒間の表示なので見落としやすくなっています。このプロンプトの表示中に F6 を押さなかった場合は、追加ドライバを指定できる画面が表示されず、インストールは失敗します。この場合は、システムを再起動して手順 3 に戻る必要があります。

F6 を押すと、追加の大容量記憶装置を指定するオプションが提供される画面が表示されます。

図 6-3 追加デバイスの指定画面



7. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次のように大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - フロッピーディスクローカル：サーバーのフロッピードライブ A に挿入された大容量記憶装置ドライバフロッピーディスク
 - フロッピーディスクリモート：JavaRConsole サーバーフロッピードライブに挿入された大容量記憶装置ドライバフロッピーディスク

- フロッピーイメージ : JavaRConsole システムで使用可能な floppy.img
8. **s** を押して、追加のデバイスを指定します。
- 使用可能なドライバのリストが表示されます。Sun Fire X4540 の場合は [図 6-4](#) を、Sun Fire X4500 の場合は [図 6-5](#) を参照してください。

図 6-4 Sun Fire X4540 の大容量記憶装置用アダプタの選択画面

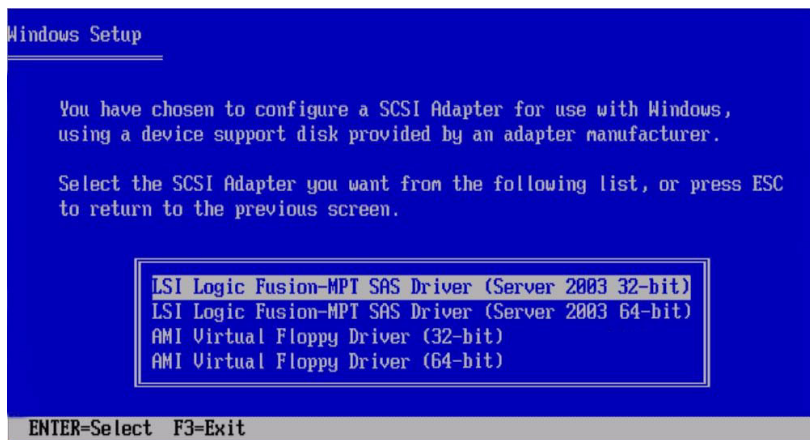
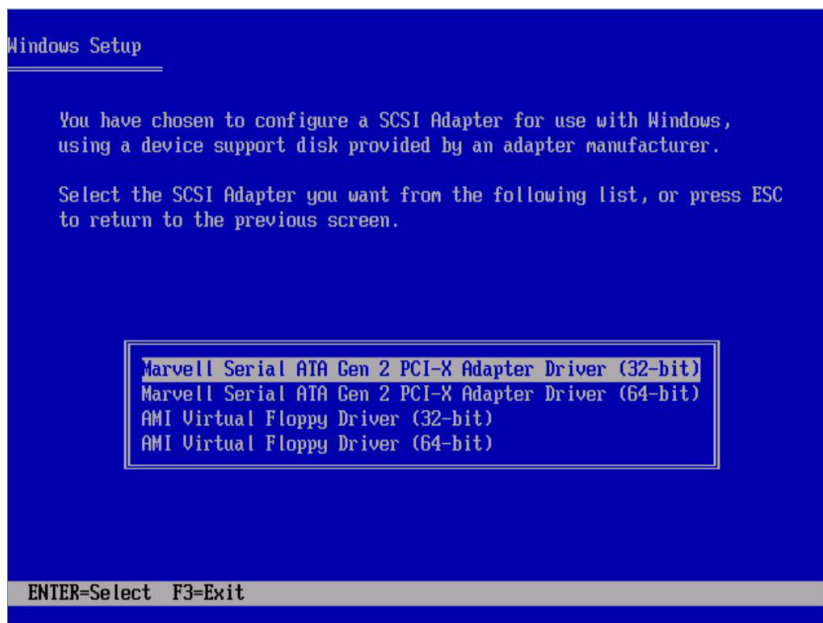


図 6-5 Sun Fire X4500 の大容量記憶装置用アダプタの選択画面



9. インストールする Windows Server 2003 のバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) に応じて、適切なドライババージョンを選択して、Enter を押します。
Windows セットアップで選択対象が表示されます。
10. Windows セットアップでインストールされる大容量記憶装置ドライバがリストされます (図 6-6 の例)。Enter キーを押して先へ進みます。

図 6-6 Sun Fire X4540 での追加デバイスの指定画面の例



11. 次のいずれかの手順を実行します。
 - フロッピーディスクローカルの方法を使用して Windows をインストールしている場合は、Enter を押して、手順 14 をスキップします。
 - フロッピーディスクリモートまたはフロッピーイメージによる取得方法を使用してリモートから Windows をインストールしている場合は、AMI 仮想フロッピードライバをインストールする必要があります。S を押します。
Windows セットアップで使用可能なドライバのリストが表示されます。次のステップに進みます。

図 6-7 Sun Fire X4540 の大容量記憶装置用アダプタの選択画面

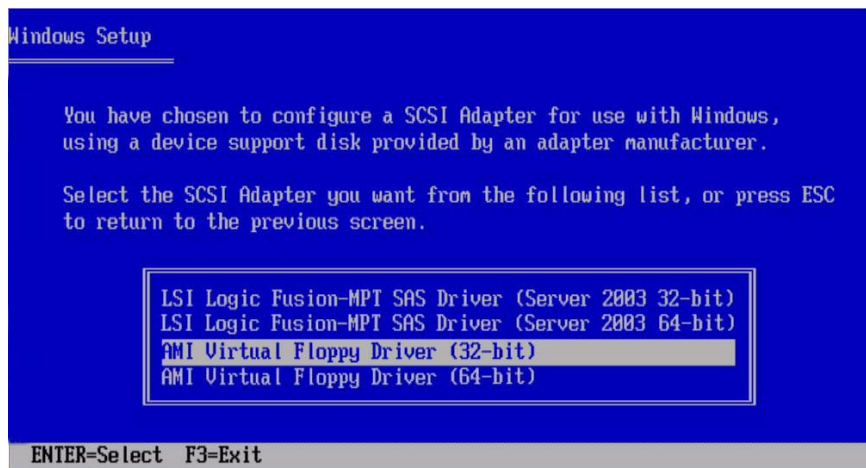
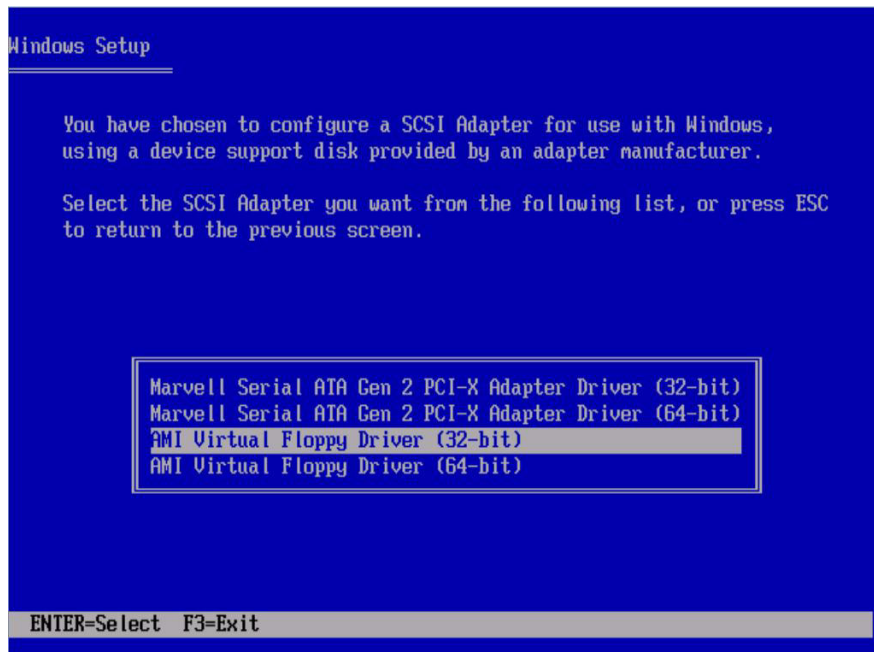
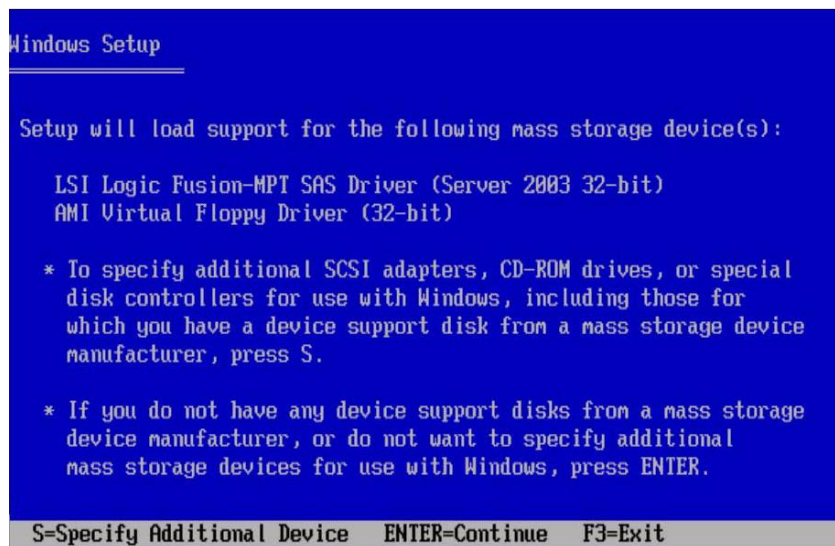


図 6-8 Sun Fire X4500 の大容量記憶装置用アダプタの選択画面



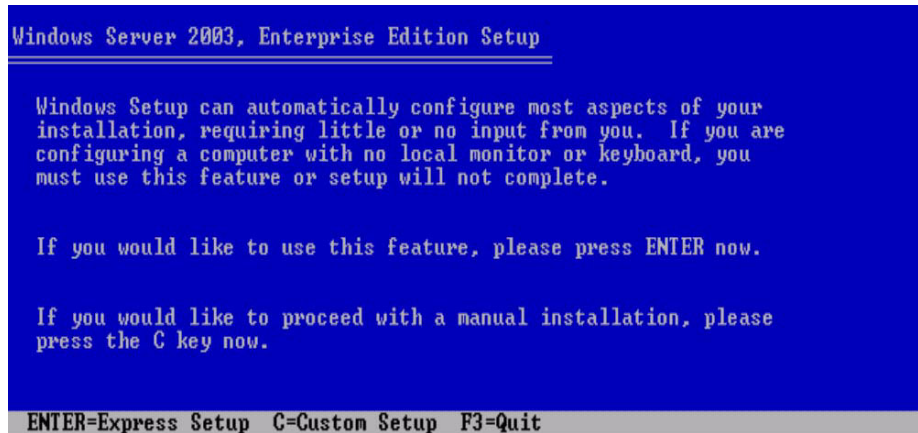
12. インストールする Windows のバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) に応じて、適切なバージョンの AMI 仮想フロッピードライバを選択して、Enter を押します。
Windows セットアップで、選択した両方のドライバが示された画面が表示されま
す (例 : [図 6-9](#))。

図 6-9 Sun Fire X4540 での選択したドライバの指定の例



13. 選択を確認して、Enter を押して続行します。
セットアップの起動画面が表示されます。
14. セットアップの起動画面で、Enter を押して続行します。
セットアップの選択画面が表示されます。

図 6-10 セットアップの選択画面



15. Express Setup (高速セットアップ) を選択する場合は Enter を、Custom Setup (カスタムセットアップ) を選択する場合は C を押します。
16. 以下のメッセージのプロンプトが出されるまで、Windows Server 2003 の初期セットアップを完了するために画面上の指示に従います。

Remove disks or other media. (ディスクまたは他のメディアを取り出してください。) Press any key to restart. (いずれかのキーを押して再起動してください。)

このメッセージが表示されると、インストールを完了するために、選択したドライバ取得方法に応じて、以下のいずれかのステップを完了する必要があります。

 - フロッピーディスクローカル : サーバーのフロッピードライブからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーディスクリモート : JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーイメージ : JavaRConsole のデバイスメニューでフロッピーイメージの選択を解除します。

その後、いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。
17. 第 7 章「重要なサーバー固有ドライバのアップデート」に進みます。

第7章

重要なサーバー固有ドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 をサーバー固有のデバイスドライバでアップデートする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 38 ページの「Disk Control and Monitoring のプリインストール要件 (X4500 サーバーのみ)」
- 39 ページの「サーバー固有ドライバのアップデート」
- 43 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 45 ページの「追加ソフトウェアの追加情報」

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールしている。
- 13 ページの「大容量記憶装置ドライバ取得の準備」の説明のとおり、Windows.zip をダウンロードして、InstallPack_x_x_x.exe を展開している。
- サーバーから InstallPack.exe にすぐにアクセスできる状態になっている。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します (例 : InstallPack_1_1_4.zip)。

Disk Control and Monitoring のインストール要件 (X4500 サーバーのみ)

オプションの Sun Fire X4500 用 Disk Control and Monitoring (DCM : ディスクの制御および監視) (説明については、[43 ページの「追加ソフトウェアのインストール」](#)を参照) をインストールする場合は、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 再配布可能パッケージ、および IPMI System Management ドライバをインストールする必要があります。以下のステップを実行します。

1. Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 のパッケージをインストールします。
Microsoft Server 2003 R2 SP2 の場合は、.NET Framework バージョン 2.0 が含まれていますが、インストールされていません。以下を実行します。
 - a. タスクバーで、スタートをクリックしてからコントロールパネルをクリックします。
 - b. コントロールパネルで「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
 - c. 「アプリケーションの追加と削除」で、「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックして、「Microsoft .NET Framework 2.0」を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「Next (次へ)」をクリックします。

これで .NET Framework がインストールされます。[手順 2](#) に進みます。

Windows Server 2003 R2 SP2 の場合は、以下の URL から Microsoft .NET Framework 2.0 のパッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=0856EACB-4362-4B0D-8EDD-AAB15C5E04F5&displaylang=en> 完了後、[手順 2](#) に進みます。

2. Windows Server 2003 R2 SP2 をインストールしている場合は、[52 ページの「Microsoft の IPMI System Management ドライバをインストールするには \(Windows Server 2003 R2 SP2\)」](#)で説明されているように、Microsoft IPMI System Management ドライバがインストールされた状態にしてください。
完了後、[39 ページの「サーバー固有ドライバのアップデート」](#)に進みます。

サーバー固有ドライバのアップデート

Sun は、Sun サーバー固有ドライバおよび追加ソフトウェアをインストールするウィザードを提供しています。Sun Fire インストールパッケージウィザードは、以下のいずれかの方法を使用して起動できます。ご使用のサーバーのツールとドライバーの CD のメインメニューから、または InstallPack_x_x_x.exe 実行可能ファイルから。それぞれの方法の手順を以下に説明します。

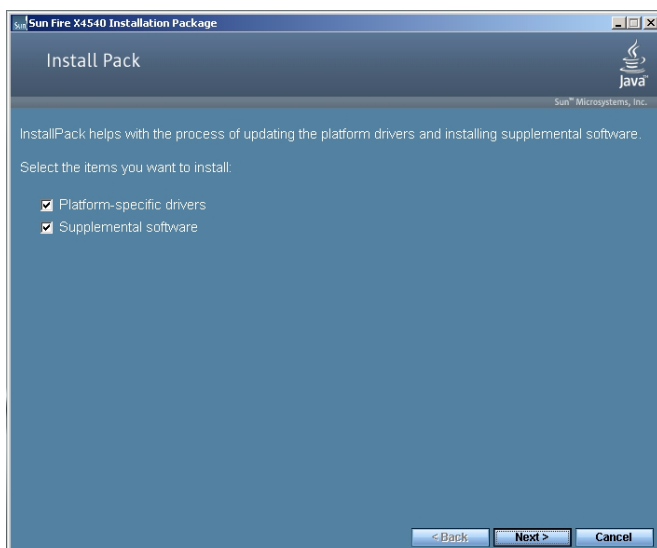
▼ サーバー固有ドライバをアップデートするには

1. 以下のいずれかの方法を使用して、Sun Fire インストールパッケージソフトウェアを起動します。
 - Sun Fire X4540 の場合：ツールとドライバの CD を USB 接続の外部 CD/DVD ドライブに挿入します。CD が自動的に起動します。メインメニューで、Install Drivers and Supplemental Software (ドライバと追加ソフトウェアのインストール) を選択します。
または
 - Sun Fire X4500 または X4540 の場合：InstallPack_x_x_x.exe ファイルを Sun ダウンロードサイトからダウンロードした場合 (7 ページの「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」の説明のように)、サーバーのローカルドライブに必ずコピーしてから、InstallPack_x_x_x.exe アプリケーションを実行します。

Sun Fire インストールパッケージのダイアログボックス (下図) が表示されます。

注 - ここでの画面例は、Sun Fire X4540 サーバーのもので、Sun Fire X4500 の場合は、これらの例とやや異なりますが、実行する操作は同じです。

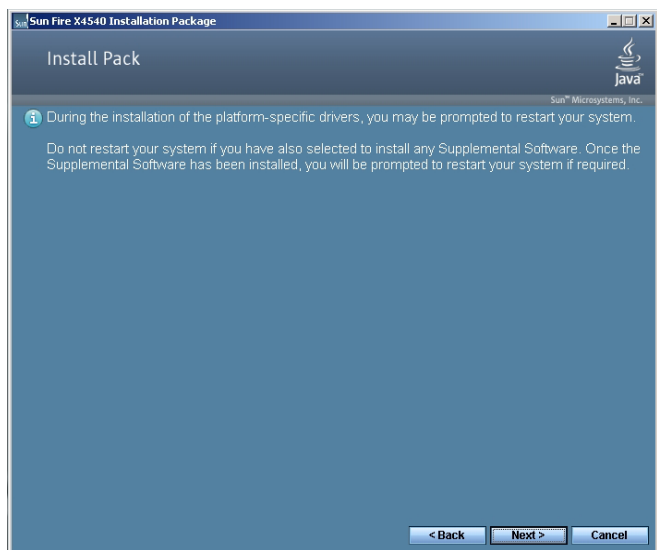
図 7-1 Sun Fire インストールパッケージのダイアログボックスの例



2. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「platform-specific drivers (プラットフォーム固有ドライバ)」を常に受け入れる必要があることに注意してください。インストールパックの注意ダイアログボックスが表示されます。

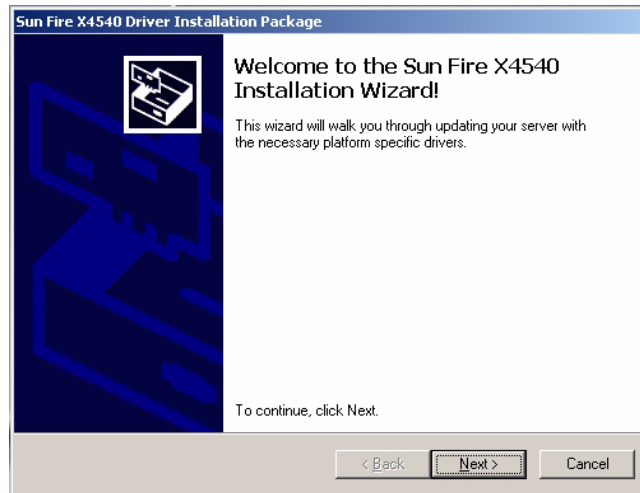
図 7-2 インストールパックの注意ダイアログボックスの例



3. 重要な注意点を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome to the Sun Fire Installation Wizard (Sun Fire インストールウィザード
によろこそ)」が表示されます。

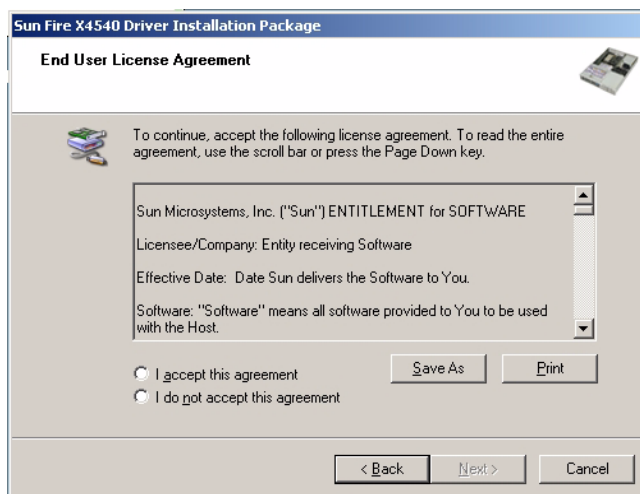
図 7-3 Sun Fire インストールウィザードの例



4. 「Next (次へ)」をクリックします。

「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ページが表示
されます。

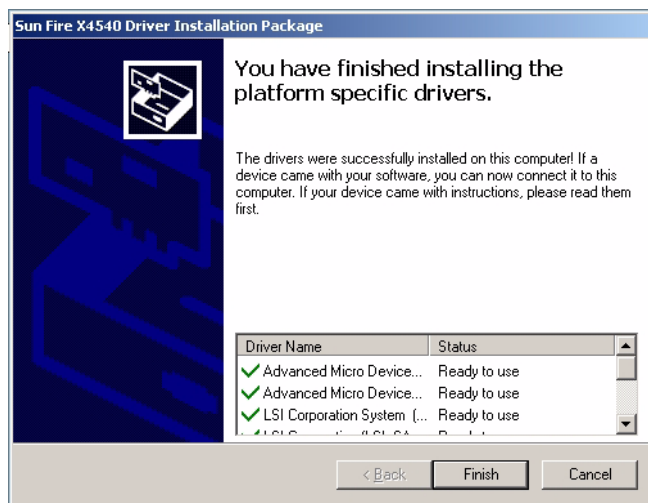
図 7-4 「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ページ



5. 「I accept this agreement (この契約書を承諾)」を選択してから、「Next (次へ)」をクリックします。

プラットフォーム固有ドライバがインストールされます (図 7-5 を参照)。緑のチェックマークで、各ドライバが正常にインストールされたことを確認します。

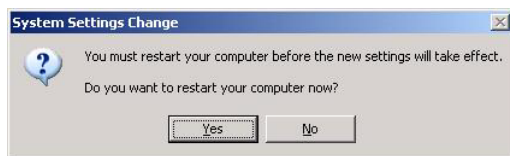
図 7-5 インストールの終了ページの例



6. 「完了」をクリックします。

「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックスが表示されます (図 7-6 を参照)。

図 7-6 「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックス



注 – 追加ソフトウェアのインストールを行う場合 (強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

7. 手順 2 でデフォルト設定を受け入れた場合は、「No (いいえ)」をクリックして 43 ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。

追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「Yes (はい)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

追加ソフトウェアのインストール

Sun Fire サーバーでは、追加ソフトウェアコンポーネントを使用することができます。インストールのオプションは以下の2つです。**Typical (通常)**：下表のとおり基本的な選択が実行されます。**Custom (カスタム)**：Typical (通常) の上位セットであり、Typical (通常) のすべてのソフトウェアコンポーネントに加えて、選択可能な追加ソフトウェアコンポーネントを組み込むことができます。

表 7-1 インストールパックの追加ソフトウェア

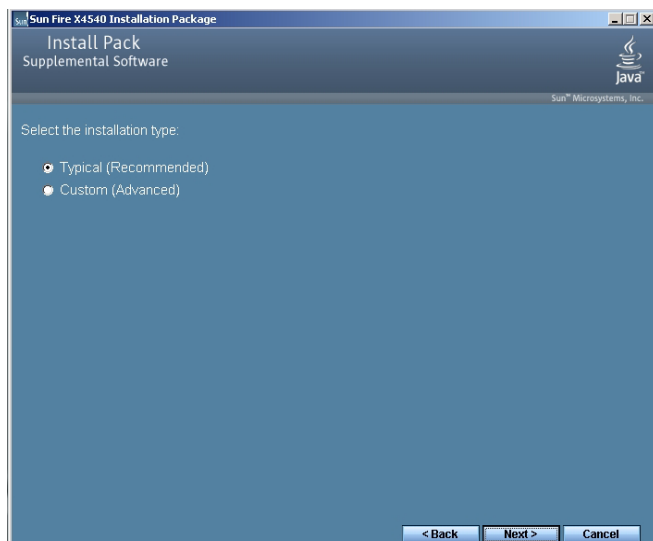
サーバーサポート	使用可能なコンポーネント	Windows Server 2003
X4500 のみ	Disk Control and Monitoring (ディスクの制御と監視) ユーティリティー—ディスクドライブを管理し、BMC にディスクドライブステータスおよびフィールド交換ユニット (FRU) に関する情報を報告します。詳細については、 第 9 章 を参照。	Typical (通常)
X4540 および X4500	ipmitool—BMC (別名サービスプロセッサ) を使用して、センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、フィールド交換ユニット (FRU) 目録を表示し、LAN 設定パラメーターを取得および設定し、シャシーの電源制御処理を実行する、コマンド行ユーティリティー。Windows Server 2003 でのインストールについては、 51 ページの「IPMITool インストールの完了」 を参照。	Typical (通常)
X4540 および X4500	IPMI System Management ドライバ (Sun Microsystems)—センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、フィールド交換ユニット (FRU) 目録に関する情報を表示する、Windows ドライバ。Windows Server 2003 SP1 の場合にのみインストール可能。Windows Server 2003 R2 には適用不可。	Typical (通常)
X4500 のみ	Intel NIC Teaming—チーミング機能には、耐障害性、負荷分散、リンク集積体、および仮想 LAN (VLAN) のタグ付けが含まれます。	Typical (通常)
X4540 のみ	NVIDIA Network Access Manager (NAM)—NVIDIA ギガビット Ethernet を使用した、NVIDIA nForce MCP の統合コンポーネントとして使用可能なハードウェア最適化ネイティブファイアウォールソリューション。	Custom (カスタム)
X4540 および X4500	AMD MCAT—Machine Check Analysis Tool (MCAT) は、Windows システムイベントログ (.evt) ファイルを引数として取り、MCA エラーログを人間が読み取れる形式に復号化する、コマンド行ユーティリティーです。	Custom (カスタム)
X4540 および X4500	AMD Power Monitor—AMD Power Monitor は、現在の周波数、電圧、システム内の各プロセッサの各コアの使用率および省電力を表示するためのものです。	Custom (カスタム)

▼ 追加ソフトウェアをインストールするには

注 – 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中にはダイアログボックスの内容を注意深く確認して、結果が期待どおりになるようにしてください。

手順 2 で、最初のインストールパッケージのページで **Supplemental Software (追加ソフトウェア)** を選択して (図 7-1 を参照)、手順 7 で **No (いいえ)** を選択した場合は、追加ソフトウェアダイアログボックスが表示されます。

図 7-7 追加ソフトウェアダイアログボックス



1. 「Typical (通常)」設定を受け入れる場合は「Next (次へ)」をクリックし、インストールするオプションを選択する場合は「Custom (カスタム)」を選択します (表 7-1 の説明を参照)。
コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。
2. 追加ソフトウェアがインストールされたら、「Finish (終了)」をクリックします。
3. System Setting Change (システム設定の変更) ダイアログボックスで「Yes (はい)」をクリックして、システムを再起動します。Sun Fire インストールパッケージソフトウェアを、ツールとドライバの CD から実行した場合には、ここでその CD を取り出します。

追加ソフトウェアの詳細については、次のセクションに進んでください。

追加ソフトウェアの追加情報

このセクションでは、サーバー用 Sun 追加ソフトウェアの追加情報をリストします。この情報には以下のものが含まれます。

- 45 ページの「[Intel NIC Teaming の使用 \(X4500 サーバーのみ\)](#)」
- 48 ページの「[NVIDIA Forceware Network Access Manager \(X4540 サーバーのみ\)](#)」
- 51 ページの「[IPMItool インストールの完了](#)」

Disk Control and Monitoring (X4500 サーバーのみ)

Disk Control and Monitoring (DCM : ディスク制御と監視) は、Microsoft Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 R2 SP2 オペレーティングシステムを実行している、Sun Fire X4500 サーバー用のマルチドキュメントアプリケーションです。DCM は、ドライブの挿入と取り外しを支援し、ディスク構成の変更を報告し、Microsoft IPMI システム管理ドライバを使用してディスク FRU (フィールド交換ユニット) 情報を Sun Fire X4500 サーバーの Baseboard Management Controller (BMC、別名サービスプロセッサ) に保管された情報に同期します。

DCM のインストールおよび使用方法の詳細については、[第 9 章](#)を参照してください。

Intel NIC Teaming の使用 (X4500 サーバーのみ)

Intel® PROSet for Windows Device Manager は、Windows のデバイスマネージャの拡張機能です。Sun Fire X4500 サーバーに追加ソフトウェアの NIC Teaming をインストールすると、デバイスマネージャでリストされるネットワークアダプタに、Intel PROSet のソフトウェア構成タブが自動的に追加されます。

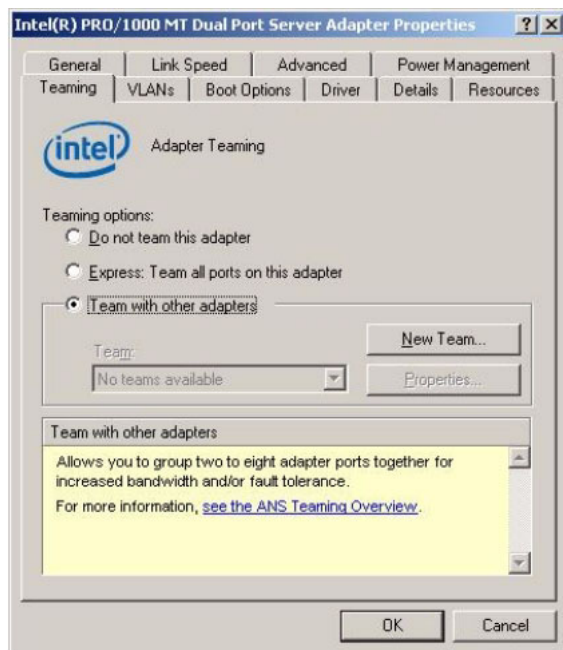
▼ Intel NIC Teaming の構成設定にアクセスするには

サーバーのネットワークインタフェースで使用可能な機能にアクセスするには、以下の操作を行います。

1. タスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

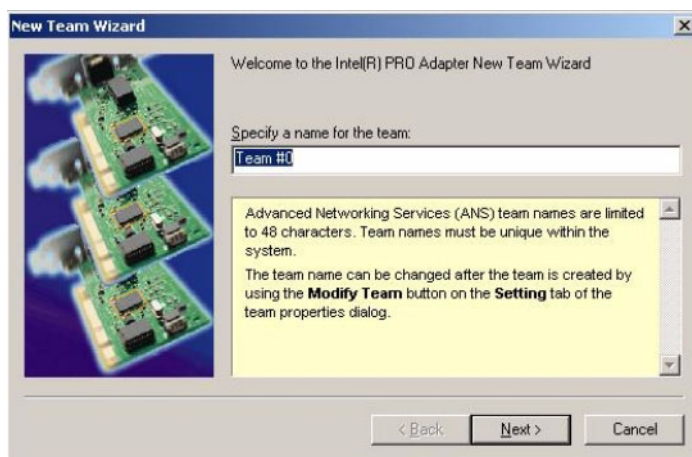
2. オープンリストで、devmgmt.msc と入力してから、「OK」をクリックします。
デバイスマネージャダイアログボックスが表示されます。
3. ネットワークアダプタグループを展開して、最初のアダプタを選択します。
4. 選択対象を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。
アダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

図 7-8 Intel NIC アダプタのプロパティ



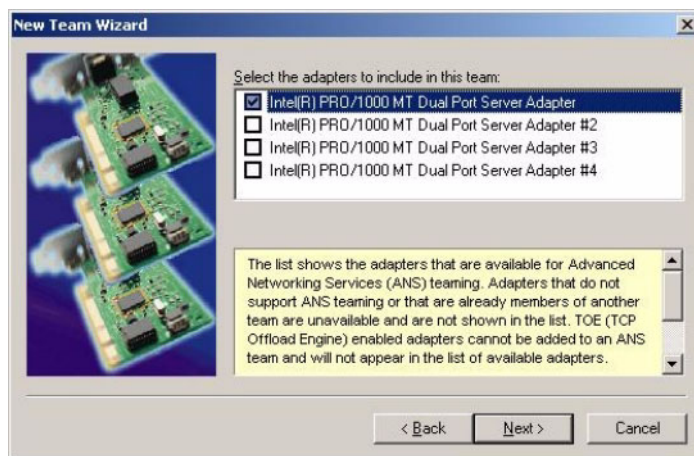
5. NIC のチーミングをセットアップするには、「Teaming (チーミング)」タブをクリックします。
チーミングオプションが表示されます (図 7-8 を参照)。
6. 「Team with other adapters (他のアダプタとのチーミング)」を選択してから、「New Team (新規チーム作成)」をクリックします。
New Team Wizard (新規チーム作成ウィザード) が表示されます。

図 7-9 New Team Wizard (新規チーム作成ウィザード)



7. 「Next (次へ)」をクリックします。アダプタの選択ページが表示されます。

図 7-10 アダプタの選択ページ



8. インストールされているアダプタのリストから、チームに組み込むアダプタを選択します。

ご使用の環境での NIC チューニングのセットアップ方法の詳細については、以下の Intel の接続性に関する Web ページの「Advanced Networking Services—Teaming」を参照してください。

<http://support.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、以下の URL から、ご使用のサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続の User Guides (ユーザーズガイド) 一式をダウンロードすることができます。

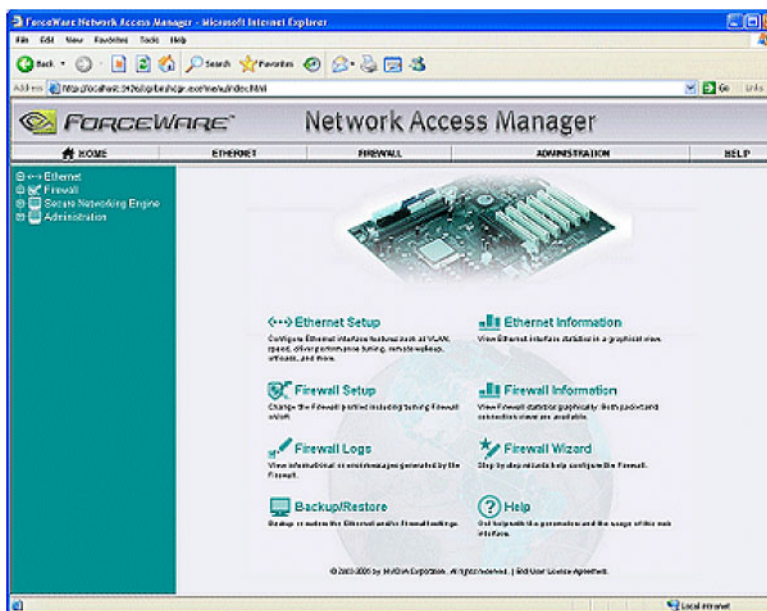
<http://support.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

NVIDIA Forceware Network Access Manager (X4540 サーバーのみ)

Sun Fire X4540 サーバー用の ForceWare Network Access Manager (NAM) アプリケーションは、システムまたはネットワーク管理者向けのソフトウェアです。このソフトウェアを使用して、NVIDIA 製のネットワーク用ハードウェアとソフトウェアの設定および制御、統計情報の収集、およびログの監視を行うことができます。ForceWare Network Access Manager では、ネットワーク用ハードウェアおよびソフトウェアの管理の際に以下を選択できます。

- **ActiveArmor Firewall**—ハードウェアに最適化したエンドポイント (デスクトップ) ファイアウォールを提供します。ActiveArmor は、インストールされたシステムが生成または受信したトラフィックを制御します。ファイアウォールで設定した特定のルールに従って、特定のトラフィックを許可し、特定のトラフィックをブロックします。ActiveArmor は、サーバーをネットワークの脅威から保護する際に、ゲートウェイファイアウォールと連携して機能します。ActiveArmor は、アンチスプーフィング、アンチスニフ、アンチ ARP キャッシュポイズニング、アンチ DHCP サーバーなど、ファイアウォールとハッキング対策テクノロジーを組み込んでいます。これらは、企業ネットワーク環境では重要なセキュリティ制御機能です。
- **Network Access Manager の Web ベースインタフェース**—ウィザード、プロフィール、ステータス要約、およびログ情報を使用して、便利にアクセスできる、Web ベースのインタフェースを提供します。Network Access Manager の Web ベースインタフェースの例を [図 7-11](#) に示します。

図 7-11 Network Access Manager のページ例



一般要件

以下のインストール要件に注意してください。

- NTFS ファイルシステム。非管理者ユーザーによってファイアウォールやアクセス設定データなどの機密情報が変更されないようにするため、ForceWare Network Access Manager アプリケーションは NTFS ファイルシステムにインストールすることをお勧めします。NTFS の詳細については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。
- NVIDIA は、Microsoft から最新のオペレーティングシステムのサービスパックおよびセキュリティパッチを適用することを推奨しています。ForceWare Network Access Manager は、Windows Server 2003 で動作します。
- nForce Ethernet ドライバがコンピュータにすでにインストールされていて動作している必要があります。ForceWare Network Access Manager は、NVIDIA Ethernet インタフェースでのみ機能します。
- NVIDIA は、システムを最大限保護するために、ActiveArmor Firewall と連携させて、ウイルス対策ソフトウェアも使用することを推奨しています。
- ForceWare Network Access Manager の Web ベースインタフェースを使用する場合は、以下に注意してください。
 - Microsoft Internet Explorer バージョン 5 以降がコンピュータで実行されている必要があります。

- ForceWare Network Access Manager の Web ベースインタフェースは、NVIDIA が登録した TCP ポート 3476 番を使用します。ほかのネットワークアプリケーションでポート 3476 が使用されていないことを確認してください。

NAM のインストール

ForceWare Network Access Manager のインストールプログラム (NAMSetup.exe) およびソフトウェアは、Sun 追加ソフトウェアのインストール時に提供される基本 nForce ドライバインストールパッケージの一部です。

1. セットアップインストールプログラムを実行します。これは、Sun のツールとドライバ CD を Windows サーバーの CD/DVD ドライブに挿入して、メインメニューで追加ソフトウェアのインストールを選択することによって行えます。
2. インストール後、必要に応じて、ForceWare Network Access Manager ソフトウェアを使用して、Ethernet およびファイアウォールの設定を変更できます。

NAM Web インタフェースの起動

以下のように、ForceWare Network Access Manager の Web インタフェースを起動できます。

- ForceWare Network Access Manager の Web ベースインタフェースを起動するには、以下の手順に従います。
 - a. Windows のタスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「プログラム」をクリックします。
 - b. NVIDIA Corporation のプログラムグループ、Network Access Manager フォルダを開き、Web ベースインタフェースをクリックします。
 - ActiveArmor Firewall Web インタフェースのみを起動するには、以下の手順に従います。
 - Windows のデスクトップ上の ActiveArmor Firewall アイコンをダブルクリックします。
または
 - a. Windows のタスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「プログラム」をクリックします。
 - b. NVIDIA Corporation のプログラムグループ、Network Access Manager フォルダを開き、ActiveArmor Firewall をクリックします。
- ActiveArmor Web インタフェースを使用して、ActiveArmor Firewall および他の一般的な管理機能を設定することができます。

リモートユーザー：ForceWare Network Access Manager Web ベースインタフェースのリモートユーザーの場合は、ユーザー名とパスワードの入力の前に、「Security Alert (セキュリティの警告)」ページが表示され、管理対象コンピュータのセキュリティ証明書について警告が出されます。

セキュリティ証明書は、SSL (Secure Sockets Layer) で通信チャンネルを保護できるようにするために、Network Access Manager が生成します。Web インタフェースを使用するには、これを受け入れる必要があります。

NAM の詳細について

ご使用のサーバーの nForce2 Gigabit MCP チップセットでサポートされている機能の詳細など、ActiveArmor Firewall を使用した NVIDIA Network Access Manager の使用方法の詳細については、以下の URL の『ForceWare Networking and Firewall Administration Guide (ForceWare ネットワークおよびファイアウォール管理ガイド)』を参照してください。

<http://www.nvidia.com/object/security.html>

IPMItool インストールの完了

IPMItool は、サーバーのサービスプロセッサを使用して、センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、フィールド交換ユニット (FRU) 目録を表示し、LAN 設定パラメーターを取得および設定し、シャージの電源制御処理を実行する、コマンド行ユーティリティです。IPMItool は追加ソフトウェアであり、サーバーのツールとドライバの CD または Installpack_x_x_x.exe 実行可能ファイル (本章で前述) を使用してインストールできます。

IPMItool は、インストール後、サーバーのサービスプロセッサ (または別の Sun 製サーバーのサービスプロセッサ) に以下の方法でアクセスするために使用することができます。

- サーバーの ILOM (*Integrated Lights Out Manager*) インタフェースを使用して。ILOM の使用方法の詳細については、ご使用のサーバーの ILOM ドキュメントを参照してください。
- サーバーの Windows オペレーティングシステムを使用して。Windows で IPMItool を使用するには、IPMI System Management ドライバ (Windows Server 2003 R2 SP2 または Windows Server 2003 SP1 の Sun 追加ソフトウェアコンポーネントとして使用可能) とともに使用する必要があります。Windows Server 2003 で IPMItool を使用するための要件を確実に満たすようにするためには、以下にリストされた要件を参照してください。

要件

IPMItool を使用するには、ご使用の Windows Server 2003 バージョンで指定された以下の要件を完了した状態にします。

Windows Server 2003 SP1 の場合：

- 44 ページの「追加ソフトウェアをインストールするには」の説明のとおり、IPMItool をインストールします。
- 44 ページの「追加ソフトウェアをインストールするには」の説明のとおり、Sun IPMI System Management ドライバをインストールします。
- 設定は不要です。IPMItool を使用する準備ができています。

Windows Server 2003 R2 SP2 の場合：

- 44 ページの「追加ソフトウェアをインストールするには」の説明のとおり、IPMItool をインストールします。
- Windows Server 2003 R2 SP2 で、Microsoft の IPMI System Management ドライバをインストールします。
- 設定が必要です。52 ページの「Microsoft の IPMI System Management ドライバをインストールするには (Windows Server 2003 R2 SP2)」で説明されているステップを実行します。

▼ Microsoft の IPMI System Management ドライバをインストールするには (Windows Server 2003 R2 SP2)

Windows オペレーティングシステムで IPMItool を使用する前に、以下を実行します。

1. Microsoft IPMI System Management ドライバを以下のようにインストールします。
 - a. コントロールパネルで「アプリケーションの追加と削除」を開きます。
「アプリケーションの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - c. 「管理とモニタツール」コンポーネントを強調表示して、「詳細」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - d. 次のいずれかの手順を実行します。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスがすでに選択されている場合は、[手順 2](#)に進みます。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスが選択されていない場合は、選択します。「サードパーティのドライバ」警告ダイアログが表示されます。

- e. 警告を読んでから「OK」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - f. 「OK」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - g. 「Next (次へ)」をクリックします。
ハードウェア管理コンポーネントがインストールされます。
2. IPMI System Management ドライバをインスタンス化します。
 3. タスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
 4. オープンリストで、以下のように入力します。
`rundll32 ipmisetp.dll,AddTheDevice`
次に「OK」をクリックします。
IPMI System Management ドライバがインスタンス化されます。
 5. IPMI System Management ドライバがインストールされていることを確認するため、上記のステップ 1a から 1c を繰り返します。

IPMItool の使用方法の詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188)を参照してください。標準の IPMItool コマンドの詳細については、以下を参照してください。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

第8章

Sun Fire ドライバの RIS イメージへの組み込み

この章は、サーバー固有ドライバをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、サーバー固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

- [55 ページの「必要なドライバの確認」](#)
- [56 ページの「Sun Fire X4500 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加」](#)
- [58 ページの「Sun Fire X4540 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加」](#)

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要があるサーバー固有ドライバを [表 8-1](#) に示します。

表 8-1 RIS イメージに必要なサーバー固有ドライバ

サーバーサポート	ドライバ/デバイス	Windows Server 2003 用に組み込み	
		32 ビット	64 ビット
X4500 および X4540	AMD-8132 HyperTransport IOAPIC コントローラ	はい	はい
X4500 のみ	AMD-8111 High Precision Event Timer	はい	いいえ
X4500 のみ	AMD-8131 HyperTransport PCI-X トンネル	はい	いいえ
X4500 および X4540	AMD K8 プロセッサ	はい	はい
X4500 および X4540	AMI 仮想フロッピー	はい	はい
X4500 のみ	Marvell SATA 統合ディスクコントローラ	はい	はい

表 8-1 RIS イメージに必要なサーバー固有ドライバ (続き)

サーバーサポート	ドライバ/デバイス	Windows Server 2003 用に組み込み	
		32 ビット	64 ビット
X4540 のみ	LSI Logic Fusion-MPT 統合ディスクコントローラ	はい	はい
X4540 のみ	NVIDIA nForce PCI System Management	はい	はい
X4540 のみ	NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
X4540 のみ	NVIDIA nForce4 Low Pin Count Controller	はい	いいえ

Sun Fire X4500 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加

ここでは、RIS イメージにドライバを組み込む方法の例を説明します。

開始前のご注意

RIS イメージの作成前に、以下を実行します。

- Windows リモートインストールサービスが Windows サーバーで実行されている必要があります。詳細については、Windows リモートインストールサービスのドキュメントを参照してください。
- Windows Server 2003 の DriverPack.zip を検出します。詳細については、[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)を参照してください。

▼ RIS イメージにドライバを追加するには

次の手順では、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- Language はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)。
- Dir_name は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- Arch は、32 ビット版イメージでは i386、64 ビット版イメージでは amd64 になります。

RIS イメージにドライバを追加するには、次の手順に従います。

1. RIS イメージの、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダと同じ階層に、\$OEM\$ フォルダを作成します。
2. \$OEM\$ フォルダ内に、\$1\Sun\Drivers フォルダを作成します。
3. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
4. \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\mrvl\mvsata.sys ファイルを以下のフォルダにコピーします。RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダ。
5. RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif ファイルで、次のテキストを可視テキストの最後に追加します。

```
[SourceDisksFiles]
```

```
mvsata.sys = 1,,,,,3_4,1
```

```
HardwareIdsDatabase]
```

```
PCI\VEN_11ab&DEV_6041 = "mvsata"
```

```
PCI\VEN_11ab&DEV_6081 = "mvsata"
```

```
PCI\VEN_1000&DEV_6042 = "mvsata"
```

```
[SCSI.load]
```

```
mvsata = mvsata.sys,4
```

```
[SCSI]
```

```
mvsata = "Marvell Serial ATA Gen 2 PCI-X Adapter(Server 2003  
32-bit)"
```

6. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更を加えます。

読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示しています。この情報は、1 行に入力してください。

表 8-2 Sun Fire X4500 サーバーの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
[Unattended]	[Unattended]
OemPreinstall = yes	OemPreinstall = yes
OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\amd\cpu; \Sun\Drivers\amd\8131\ioapic; \Sun\Drivers\amd\8111\hpet; \Sun\Drivers\8131\pcix; \Sun\Drivers\mrvl;\Sun\drivers\ami"	OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\amd\cpu; \Sun\Drivers\amd\8132\ioapic; \Sun\Drivers\mrvl;\Sun\Drivers\ami"

7. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc  
> net start binlsvc
```

Sun Fire X4540 サーバー用 RIS イメージへのドライバの追加

Windows リモートインストールサービスを実行しているサーバーを使用した Windows Server 2003 のリモートインストールでは、Windows Server 2003 で提供される LSI 統合ディスクコントローラドライバは、オペレーティングシステムをインストールするには不十分です。Sun は、DriverPack.zip で利用可能な LSI 統合ディスクコントローラドライバを使用して RIS イメージをアップデートすることをお勧めします。

開始前のご注意

RIS イメージの作成前に、以下を実行します。

- Windows リモートインストールサービスが Windows サーバーで実行されている必要があります。詳細については、Windows リモートインストールサービスのドキュメントを参照してください。
- Windows Server 2003 の DriverPack.zip を検出します。詳細については、[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)を参照してください。

▼ RIS イメージにドライバを追加するには

以下の手順で、%RIS_Image% は、RIS サーバーの Windows イメージのルートを指します。

1. 以下のディレクトリを RIS_Image (RIS サーバーの Windows イメージ) に作成します。
 - \$OEM\$\textmode
 - \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers
2. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

3. 以下のように、プラットフォーム固有ドライバで RIS_Image をアップデートします。
 - 32 ビットの場合、DriverPack\i386 フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダに、ディレクトリ構造を変更しないようにして、コピーします。
 - 64 ビットの場合、DriverPack\amd64 フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\drivers フォルダに、ディレクトリ構造を変更しないようにして、コピーします。
4. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\lsi フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\textmode フォルダにコピーします。(内容のコピー後は、%RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\lsi フォルダを削除しても構いません)。
5. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\RIS フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\textmode フォルダにコピーします。(内容のコピー後は、%RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\RIS フォルダを削除しても構いません)。
6. Microsoft TechNet の技術文書「Creating an Answer File with Setup Manager (セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成)」の方法に従って応答ファイルを作成します。この文書は、以下の場所にあります。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.mspx>
7. インストールに使用する .sif ファイルに、表 8-3 でリストされた変更を加えます。

読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示しています。
この情報は、1 行に入力してください。

表 8-3 Sun Fire X4540 .sif ファイルのエントリ

Windows サーバー 32 ビット	Windows サーバー 64 ビット
[Unattended] OemPreinstall = yes	[Unattended] OemPreinstall = yes
OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\cpu;\Sun\Drivers\amd\ioapic;\ Sun\Drivers\ami;\Sun\Drivers\ati;\ Sun\Drivers\nvidia\smbus"	OemPnpDriversPath="\Sun\Drivers\ amd\cpu;\Sun\Drivers\amd\ioapic;\ Sun\Drivers\ami;\Sun\Drivers\ nvidia\smbus"
[MassStorageDrivers] "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (32-bit)" = OEM	[MassStorageDrivers] "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (64-bit)" = OEM
[OEMBootFiles] lsi_sas.inf lsi_sas.sys lsinodrv.inf s2k332.cat txtsetup.oem	[OEMBootFiles] lsi_sas.inf lsi_sas.sys lsinodrv.inf s2k3am64.cat txtsetup.oem

8. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始
します。

これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの
後に Enter キーを押します。

```
net stop binlsvc  
net start binlsvc
```

第9章

Disk Control and Monitoring (X4500 サーバーのみ)

この章では、Microsoft Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 R2 SP2 オペレーティングシステムを実行している、Sun Fire X4500 サーバー用の Disk Control and Monitoring (DCM : ディスク制御と監視) アプリケーションについて説明します。DCM は、Sun Fire X4540 では現在サポートされていません。

DCM リモートスクリプトをインストールする前に、.NET Framework 2.0、Microsoft の IPMI ドライバ、および rundll32 をインストールする方法の手順については、[37 ページの「重要なサーバー固有ドライバのアップデート」](#)を参照してください。

注 - DCMRemoteSetup1.1.1.msi という名前の DCM リモートスクリプトインストーラが Windows デスクトップに表示されています。DCM リモートスクリプトをインストールするには、[DCM 遠隔クライアントのインストール](#)というタイトルのセクションに進んでください。

DCM は、InstallPack.exe の「Typical (通常)」インストールの一部としてインストールされる追加ソフトウェアです。DCM がインストールされている場合は、詳細について以下のセクションをお読みください。

- [62 ページの「概要」](#)
- [62 ページの「DCM の起動」](#)
- [64 ページの「情報の表示」](#)
- [66 ページの「DCM で使用されるアイコン」](#)
- [68 ページの「メニューとツールバー」](#)
- [69 ページの「Disk View \(ディスクビュー\) のコマンド」](#)
- [80 ページの「Volume View \(ボリュームビュー\) のコマンド」](#)
- [86 ページの「制御されていないディスクの挿入および削除」](#)
- [86 ページの「DCM 遠隔クライアントのインストール」](#)
- [94 ページの「DCM クラス」](#)

概要

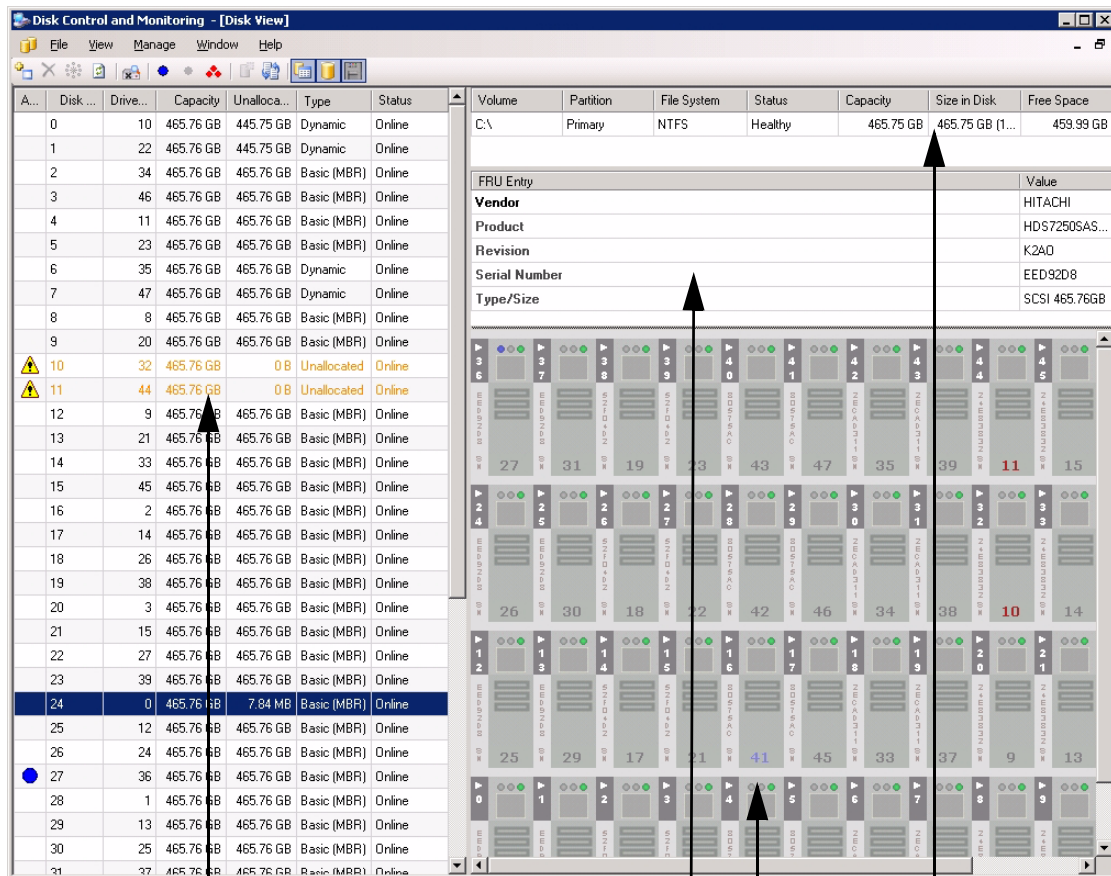
DCM は、Microsoft Windows Server 2003 R2 または Windows Server 2003 R2 SP2 オペレーティングシステムを実行している、Sun Fire X4500 サーバー用のマルチドキュメントアプリケーションです。DCM は、ドライブの挿入と取り外しを支援し、ディスク構成の変更を報告し、Microsoft IPMI システム管理ドライバを使用してディスク FRU (フィールド交換ユニット) 情報を Sun Fire X4500 サーバーの Baseboard Management Controller (BMC、別名サービスプロセッサ) に格納された情報に同期します。

DCM の起動

DCM アプリケーションを起動するには、Windows デスクトップ上の Disk Control and Monitoring アイコンをダブルクリックします。

DCM は、2 つのドキュメント - デフォルトドキュメントの Disk View (ディスクビュー) ドキュメントと Volume View (ボリュームビュー) ドキュメント - から成ります。

図 9-1 DCM Disk View (ディスクビュー) ドキュメント



ディスクパネル

ドライブマップパネル

FRU パネル

ボリュームパネル

情報の表示

DCM は、Sun Fire X4500 サーバーのハードディスクの設定およびステータスに関する情報を提供します。DCM Disk View (ディスクビュー) ドキュメントは、次の 4 つの区画で構成されています。ディスク、ボリューム、FRU、およびドライブマップです。下表は、各パネルの詳細を説明したものです。DCM コマンドに関連したアイコンの詳細については、[66 ページの「DCM で使用されるアイコン」](#)を参照してください。

表 9-1 ディスクパネル

列	説明
Alerts (警告) (ラベルのない列)	以下のディスクに関するアイコンの警告が表示されます。 アイコンなし – 通常の動作。 警告 – このアイコンは、ディスクが Foreign (外部)、Not ready (準備できていない)、または No media (メディアなし) の場合に表示されます。 エラー – このアイコンは、ディスクが Failed (故障)、Missing (欠落)、または Unknown (不明) である場合に表示されます。 FRU の同期 – このアイコンは、DCM のディスク FRU 情報が、Baseboard Management Controller (BMC、つまりサービスプロセッサ) の情報と同期していない場合に表示されます。
Disk Number (ディスク番号)	Windows のドライブ番号。
DriveBay/Slot (ドライブベイ/スロット)	物理ディスクドライブ番号。
Capacity (容量)	ディスクのフォーマットされた容量。
Unallocated (未割り当て)	どのボリュームにも割り当てられていない空きディスク容量。
Type (タイプ)	ディスクには以下の 2 つのタイプがあります。 <ul style="list-style-type: none">• Basic (基本) – 基本ディスクは、基本パーティション構成を使用し、基本ボリューム (プライマリパーティションと論理ドライブを含んだ拡張パーティション) が含まれます。基本ディスクは、x86 システム用に作成されたマスターブートレコード (MBR) パーティションスタイルを使用しており、前のバージョンの Windows に対する後方互換性があります。• Dynamic (動的) – 動的ディスクは、動的ボリュームをサポートし、ディスクの結合 (シンプル、スパン、およびストライプ化ボリュームを使用) および耐障害ボリューム (ミラー化および RAID-5 ボリュームを使用) のサポートが含まれます。

表 9-1 ディスクパネル (続き)

列	説明
Status (ステータス)	<p>ディスクがとり得る以下のステータス。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Online (オンライン) – ディスクはアクセス可能で正常です。 • Not Initialized (未初期化) – ディスクが未割り当てで、パーティションが含まれていません。 • Not Ready (準備できていない) – ディスクが使用できる状態になっていません。 • Foreign (外部) – 外部ステータスは、ボリュームの一部であったディスクが切断されて再接続された場合に適用されます。 • Failed (障害) – ディスクが読み取れず、エラーのために破損している可能性があります。 • Missing (欠落) – このステータスメッセージは、動的ディスクが破壊されているか、電源が入っていないか、取り外されていることを示します。 • Unknown (不明) – ディスクプロパティが取得できません。

表 9-2 ボリュームパネル

列	説明
Volume (ボリューム)	ボリュームのドライブ文字 (例 : D:\)。
Partition (パーティション)	プライマリブートデバイスを識別します。(ブートドライブのみ。)
Type (タイプ)	<p>以下のボリュームタイプ :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本ディスクの場合 – Primary (プライマリ) または Extended (拡張) • 動的ディスクの場合 – Mirrored (ミラー化)、RAID5、Simple (シンプル)、Striped (ストライプ化)
File System (ファイルシステム)	ボリュームのファイルシステム (FAT32 または NTFS)。
Status (ステータス)	フォーマット中、正常など、ドライブの現在のステータス。
Capacity (容量)	ボリュームのフォーマットされた容量。
Size in Disk (ディスクサイズ)	ディスクのボリュームサイズ。
Free Space (空き容量)	未使用のボリューム容量。
Fault Tolerance (耐障害性)	ボリュームが耐障害性を持っている場合に表示されます。値は、「Yes (はい)」または「No (いいえ)」です。

DCM で使用されるアイコン

表 9-3 FRU パネル

列	説明
FRU Entry (FRU エントリ)	サーバーの Baseboard Management Controller (BMC、つまりサービスプロセッサ) に格納されたディスク FRU (フィールド交換ユニット) 情報から取り込んださまざまなエントリ。
Value (値)	<ul style="list-style-type: none">• Vendor (ベンダー) – ドライブ製造業者。• Product (製品) – 製品 ID ストリング。• Revision (改訂) – ファームウェアバージョン番号。• Serial number (シリアル番号)。• Type/Size (タイプ/サイズ) – ディスクのインタフェースおよびフォーマットされていない容量。

表 9-4 ドライブマップパネル





列	説明
ドライブベーススロット番号	上部左側にある白の番号
シリアル番号	左側のグレーのバー
LED ステータス	緑に点灯 – ドライブOK 青く点灯 – ドライブの場所 黄色に点灯 – ドライブエラー
Disk Number (ディスク番号)	Windows の番号
動的ディスクタイプ	青のフォント – DDT
基本ディスクタイプ	グレーのフォント – BDT
未初期化ドライブ	赤いフォント – UD

以下のセクションでは、DCM で使用されるアイコンをリストします。

表 9-5 DCM で使用されるアイコン

アイコン	意味
	警告アイコンは、ディスクステータスが Foreign (外部)、 Not Ready (準備できていない)、 Unallocated (未割り当て)、または No media (メディアなし) である場合に表示されます。
	エラーアイコンは、ディスクステータスが Failed (障害)、 Missing (欠落)、または Unknown (不明) である場合に表示されます。
	FRU の同期アイコンは、 BMC FRU と ディスク FRU が同期されていない場合に表示されます。
	ディスクの追加アイコンは、ボリュームにディスクを追加する場合に使用されます。
	削除アイコンは、ボリュームからディスクを削除する場合に使用されます。
	ディスクの再アクティブ化は、ディスクをボリュームに戻します。
	再スキャンアイコンは、 BMC の現在の状態で、 Disk View (ディスクビュー) ドキュメントを再表示します。
	警告と検出アイコンは、ディスクの問題の可能性が生じたときに警告を表示します。
	検出アイコンは、ドライブの場所が有効化された場合に表示されます。
	エラーと検出アイコンは、ディスクの問題の可能性が生じたときに表示されます。
	削除のプレビューアイコンは、削除対象のボリュームおよびディスクドライブを表示します。
	ボリューム情報の表示アイコンは、 Volume (ボリューム) ドキュメントを表示します。
	FRU の同期アイコンは、 FRU と BMC との同期をとります。
	スロット (またはドライブマップ) の表示アイコンは、ドライブマップの表示を切り替えます。
	ボリュームの作成アイコンは、動的ボリュームを作成します。

表 9-5 DCM で使用されるアイコン (続き)

アイコン	意味
	ディスクアイコンは、Disk View (ディスクビュー) ドキュメントを表示します。
	ディスクの検出 ñ ディスクの青い LED を点灯させます。
	ディスクの検出の停止 ñ ディスクの青い LED を消灯させます。
	すべての検出の停止 ñ すべてのディスクの青い LED を消灯させます。

メニューとツールバー

DCM 操作の実行は、以下に説明するように、メニューバーおよびツールバーにあるコマンドを使用して行います。

図 9-2 DCM のメニューバーとツールバー



View (表示) メニューで自由に操作して、Disk View (ディスクビュー) ドキュメントと Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントにあるパネルを表示することができます。

Disk View (ディスクビュー) のコマンド

このセクションでは、Disk View (ディスクビュー) ドキュメントのコマンドについて説明します。

File (ファイル) メニュー

File (ファイル) メニューには、Save Report (レポートの保存) および Exit (終了) コマンドがあります。

図 9-3 Disk View (ディスクビュー) の File (ファイル) メニュー

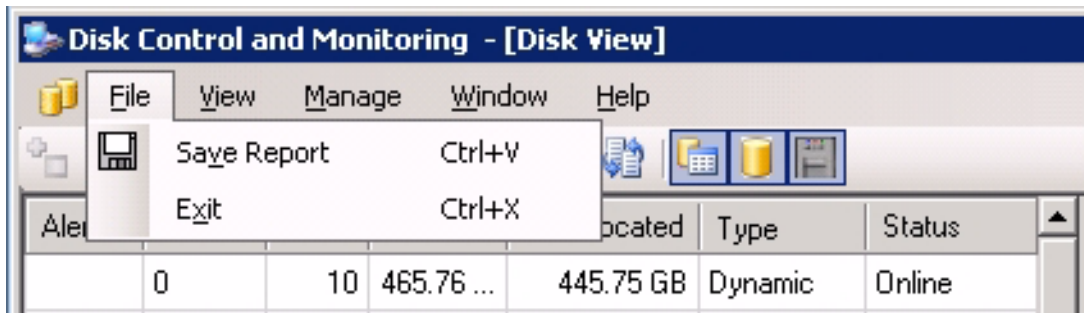


表 9-6 File (ファイル) メニュー

File (ファイル) メニュー項目	コマンドの説明
Save Report (レポートの保存)	Save Report (レポートの保存) – Disk View (ディスクビュー) ドキュメントパネルを、コンマ区切り (CSV) または XML ファイルに保存します。
Exit (終了)	DCM を終了します。

View (表示) メニュー

View (表示) メニューには、FRU、Volume (ボリューム)、および Drive (ドライブ) コマンドがあります。

図 9-4 Disk View (ディスクビュー) の View (表示) メニュー

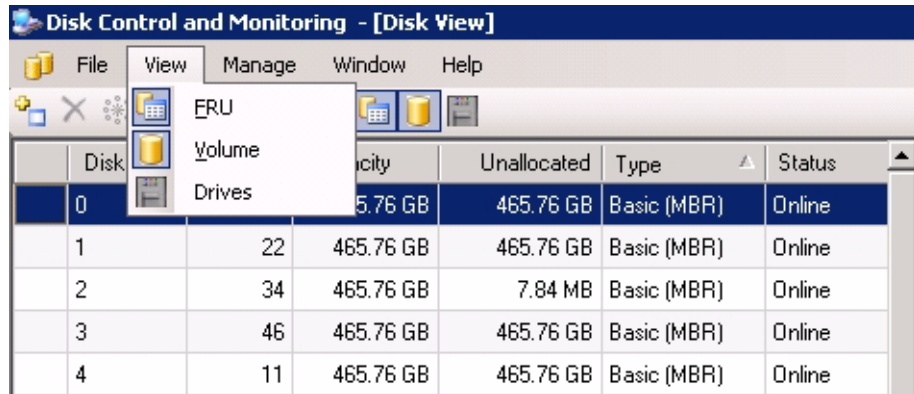


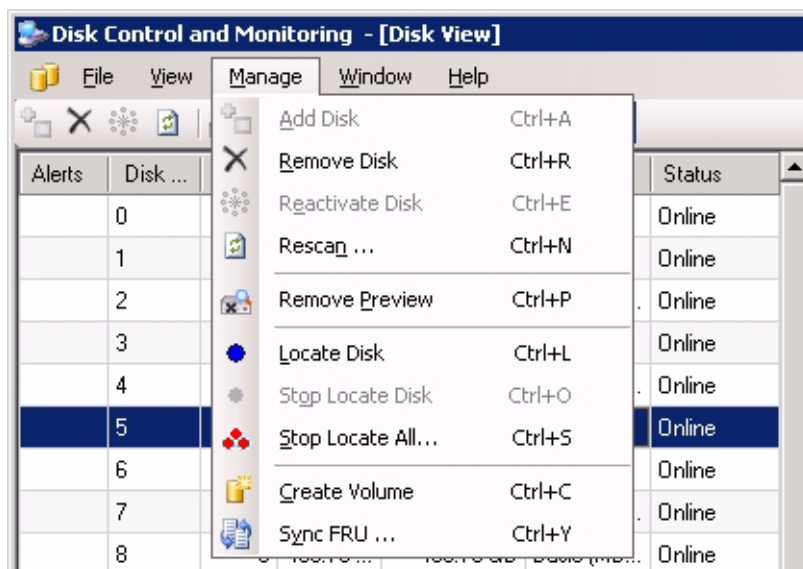
表 9-7 View (表示) メニュー

View (表示) メニュー項目	コマンドの説明
FRU	Disk View (ディスクビュー) ドキュメントの FRU パネルの表示と非表示を切り替えます。
Volume (ボリューム)	Disk View (ディスクビュー) ドキュメントの Volume (ボリューム) パネルの表示と非表示を切り替えます。
Drives (ドライブ)	Disk View (ディスクビュー) ドキュメントの Drive Map (ドライブマップ) パネルの表示と非表示を切り替えます。

Manage (管理) メニュー

Disk View (ディスクビュー) の Manage (管理) メニューには、以下のコマンドがあります。

図 9-5 Disk View (ディスクビュー) の Manage (管理) メニュー



以下のコマンドの詳細は、後述します。

- 72 ページの「Add Disk (ディスクの追加)」
- 72 ページの「Remove Disk (ディスクの削除)」
- 73 ページの「Reactivate Disk (ディスクの再アクティブ化)」
- 74 ページの「Rescan (再スキャン)」
- 74 ページの「Remove Preview (削除のプレビュー)」
- 75 ページの「Locate Disk (ディスクの検出)」
- 75 ページの「Stop Locate Disk (ディスクの検出の停止)」
- 75 ページの「Stop Locate All (すべての検出の停止)」
- 76 ページの「Create Volume (ボリュームの作成)」
- 77 ページの「Sync FRU (FRU の同期)」
- 78 ページの「Disk View (ディスクビュー) の右クリックによる Manage (管理) メニューの表示」

Add Disk (ディスクの追加)



このコマンドは、未使用または未割り当てのディスクをボリュームに追加するために使用します。Add Disk (ディスクの追加) コマンドは、基本ディスクを動的ディスクに変更します。

1. 追加するディスクを選択します。
2. Add Disk (ディスクの追加) コマンドをクリックします。
DCM は以下の操作を実行します。
 - ディスクパネルのタイプをアップデートして、基本ディスクを動的ディスクに変換します。
 - ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Remove Disk (ディスクの削除)



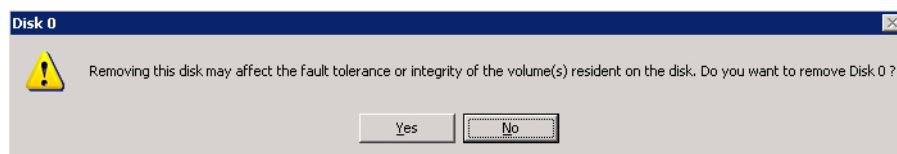
このコマンドは、ボリュームから動的ディスクを削除するために使用します。Remove Disk (ディスクの削除) コマンドは、動的ディスクを基本ディスクに変更します。



注意 – Remove Disk (ディスクの削除) コマンドは、選択したディスクのボリュームを削除します。データが失われてしまうため、保持したいデータが保存されたディスクに対してこの操作を実行しないでください。

1. 削除する動的ディスクを選択します。
2. Remove Disk (ディスクの削除) コマンドをクリックします。
耐障害のボリュームが含まれたディスクを削除する場合は、DCM によって以下のダイアログボックスで警告が出されます。

図 9-6 ディスクの削除のダイアログボックス



注意 – この警告メッセージが表示されたときは、データがバックアップされていることが確実な場合、またはデータが以後必要でない場合を除いて続行しないでください。この削除コマンドを続行すると、このディスクを使用している耐障害のボリュームにアクセスできなくなります。

DCM は以下の操作を実行します。

- ディスクパネルをアップデートし、動的ディスクを基本ディスクに変換し、ディスクのすべてのデータを削除します。
- ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Reactivate Disk (ディスクの再アクティブ化)



Reactivate disk (ディスクの再アクティブ化) コマンドは、耐障害のボリュームにディスクを戻します。

1. 耐障害のボリュームからディスクを削除します。
2. ディスクを再挿入します。
3. 再挿入されたディスクを選択します。
4. Reactivate Disk (ディスクの再アクティブ化) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Rescan (再スキャン)



Rescan (再スキャン) を使用して、追加されたディスクや削除されたディスクなどの更新されたディスク設定がないかどうかをスキャンすることができます。

- Rescan (再スキャン) コマンドをクリックして、プロセスを開始します。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定を自動的に再スキャンしてアップデートします。

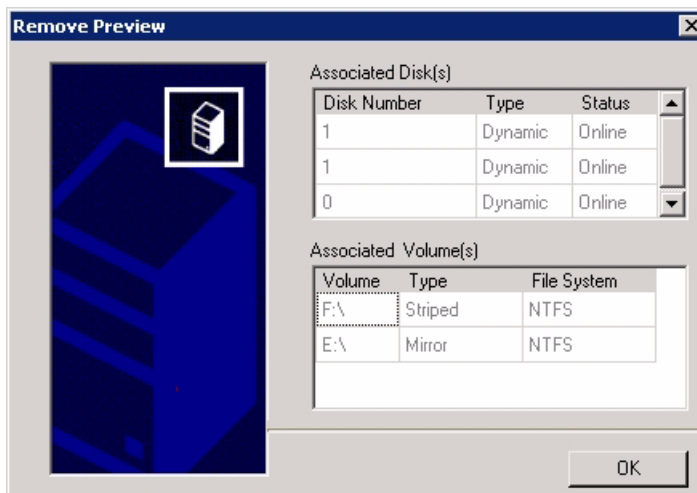
Remove Preview (削除のプレビュー)



Remove Preview (削除のプレビュー) は、ディスクを削除すると影響を受けるディスクドライブおよび関連ボリュームを表示します。

- Remove Preview (削除のプレビュー) コマンドをクリックします。

図 9-7 Remove Preview (削除のプレビュー)



Locate Disk (ディスクの検出)



サーバーのドライブベイおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルにあるディスクドライブを物理的に検出する青い LED を点灯させます。

1. 検出するディスクを選択します。
2. Locate Disk (ディスクの検出) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk (ディスク) パネルおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Stop Locate Disk (ディスクの検出の停止)



サーバーのドライブベイおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルにあるディスクドライブを物理的に検出する青い LED を消灯します。

1. 停止対象のディスクを選択します。
2. Stop Locate Disk (ディスクの検出の停止) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk (ディスク) パネルおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Stop Locate All (すべての検出の停止)



サーバーのドライブベイおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルにあるすべてのディスクドライブを物理的に検出する、すべての青い LED を消灯します。

- Stop Locate Disk (ディスクの検出の停止) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk (ディスク) パネルおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Create Volume (ボリュームの作成)



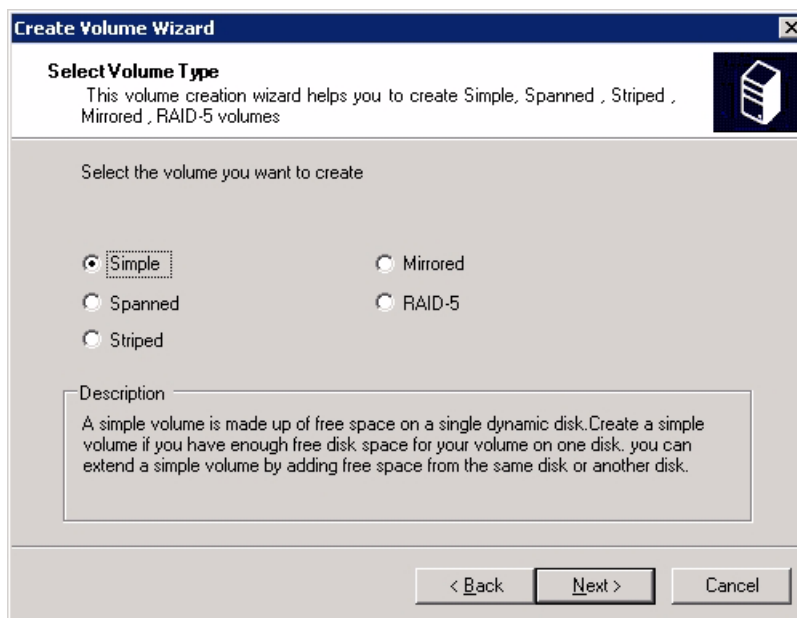
Create Volume (ボリュームの作成) コマンドは、動的ディスクにボリュームを作成するウィザードを起動します。

1. 動的ディスクを選択します。
2. Create Volume (ボリュームの作成) コマンドをクリックします。

図 9-8 「Create Volume Wizard (ボリュームの作成ウィザード)」の起動画面



図 9-9 Create Volume Wizard (ボリュームの作成ウィザード) – Select Volume Type (ボリュームタイプの選択)



3. 作成するボリュームタイプを選択します。
 - Simple (シンプル) ボリュームは耐障害ではありません。
 - Mirrored (ミラー化) ボリュームは、耐障害であり、RAID-1 または RAID-5 を使用して、ボリュームの同一コピーを 2 つ作成することで冗長性を実現します。
 - Striped (ストライプ化) ボリュームは耐障害ではありません。
 - Spanned (スパン) ボリュームは耐障害ではありません。

Sync FRU (FRU の同期)



Sync FRU (FRU の同期) コマンドは、選択したディスク情報を IPMI FRU と同期します。

1. ディスクを選択します。
2. Sync FRU (FRU の同期) コマンドをクリックします。

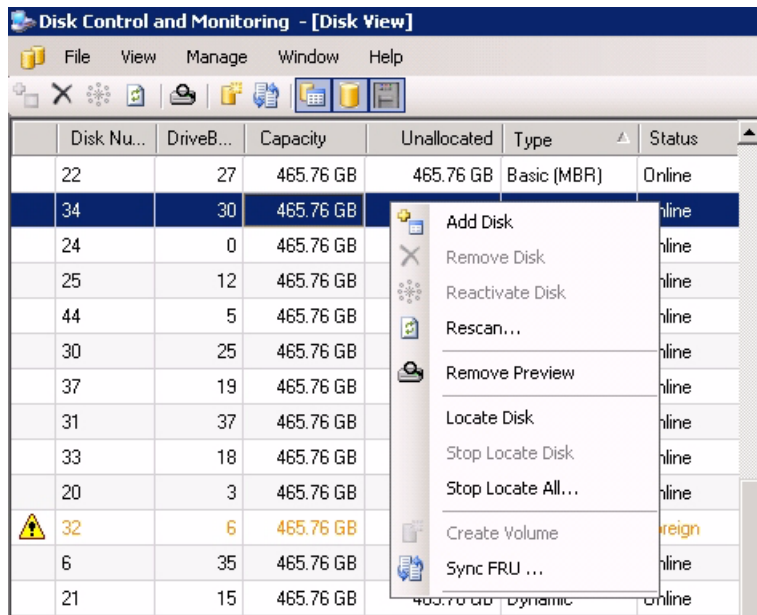
DCM は以下の操作を実行します。

- Disk (ディスク) パネルおよび Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Disk View (ディスクビュー) の右クリックによる Manage (管理) メニューの表示

下図のように、Manage (管理) メニュー項目は、選択したディスク上で右クリックすることによっても呼び出すことができます。

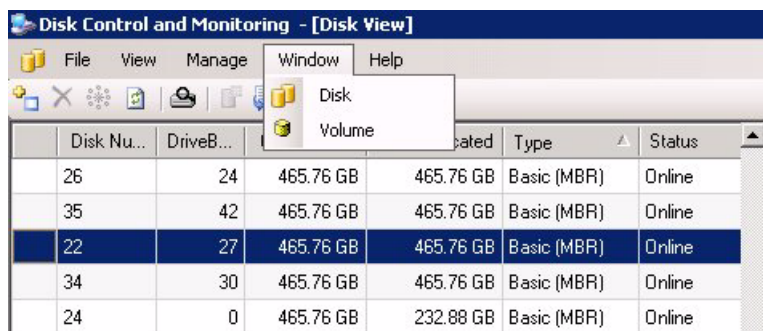
図 9-10 Disk View (ディスクビュー) の右クリックによる Manage (管理) メニューの表示



Window (ウィンドウ) メニュー

Window (ウィンドウ) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-11 Disk View (ディスクビュー) の Window (ウィンドウ) メニュー

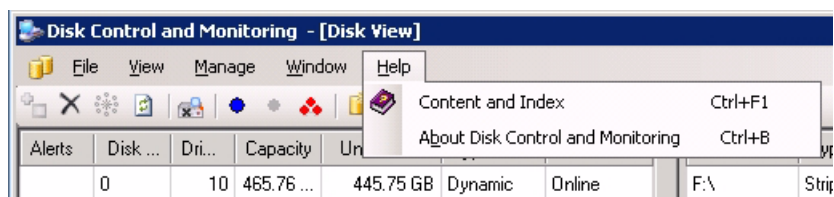


メニュー項目	コマンドの説明
Disk (ディスク)	Disk View (ディスクビュー) ドキュメントの表示
Volume (ボリューム)	Volume (ボリューム) ドキュメントの表示

Help (ヘルプ) メニュー

Help (ヘルプ) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-12 Disk View (ディスクビュー) の Help (ヘルプ) メニュー

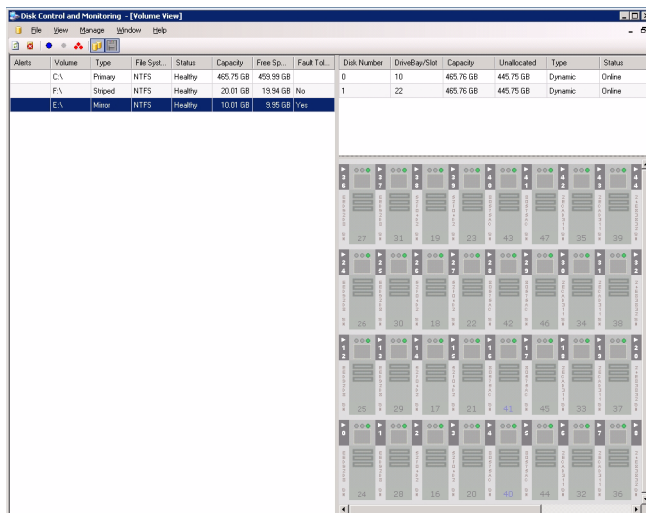


Volume View (ボリュームビュー) の コマンド

メニュー項目	コマンドの説明
ヘルプ	Contents and Index (目次と索引) はヘルプの目次を表示します
About SUN Control and Monitoring (SUN Control and Monitoring について)	アプリケーションの現在のバージョンを表示します

このセクションでは、Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントのコマンドについて説明します。

図 9-13 Volume View (ボリュームビュー)



File (ファイル) メニュー

File (ファイル) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-14 Volume View (ボリュームビュー) の File (ファイル) メニュー

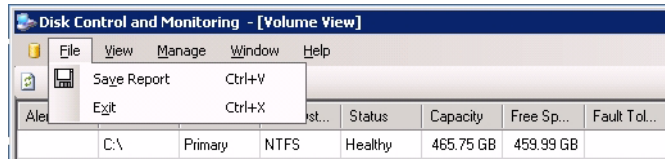


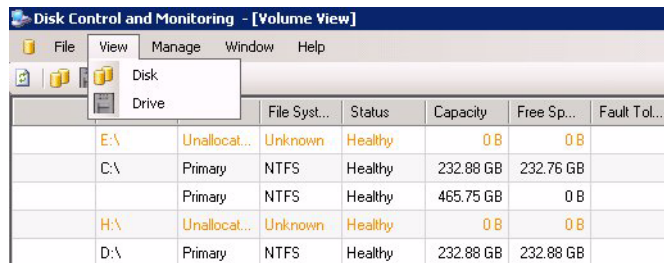
表 9-8 Volume View (ボリュームビュー) の File (ファイル) メニュー

メニュー項目	コマンドの説明
Save Report	Save Report (レポートの保存) - Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントパネルを、コンマ区切り (CSV) または XML ファイルに保存します。
Exit (終了)	DCM を終了します。

View (表示) メニュー

View (表示) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-15 Volume View (ボリュームビュー) の View (表示) メニュー



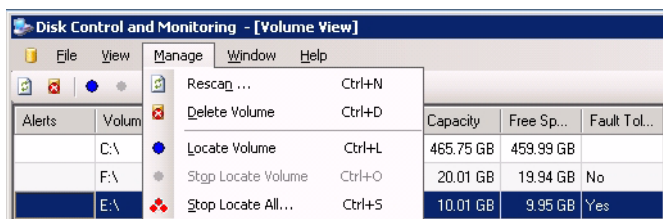
Manage (管理) メニュー

表 9-9 Volume View (ボリュームビュー) の View (表示) メニューコマンド

メニュー項目	コマンドの説明
Disk (ディスク)	Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントの Disk (ディスク) パネルの表示と非表示を切り替えます。
Drive (ドライブ)	Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントの Drive Map (ドライブマップ) パネルの表示と非表示を切り替えます。

Manage (管理) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-16 Volume View (ボリュームビュー) の Manage (管理) メニュー



- 82 ページの「Rescan (再スキャン)」
- 82 ページの「Delete Volume (ボリュームの削除)」
- 83 ページの「Locate Volume (ボリュームの検出)」
- 83 ページの「Stop Locate Volume (ボリュームの検出の停止)」
- 84 ページの「Stop Locate All (すべての検出の停止)」
- 84 ページの「Volume View (ボリュームビュー) の右クリック Manage (管理) メニュー」

Rescan (再スキャン)



Rescan (再スキャン) を使用して、追加または削除されたディスクなど、アップデートされたディスク設定がないか、スキャンすることができます。

- Rescan (再スキャン) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク設定を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Delete Volume (ボリュームの削除)

Delete Volume (ボリュームの削除) は、1 つ以上のディスクドライブのボリュームを削除します。

1. 削除する動的ボリュームを選択します。
2. Delete Volume (ボリュームの削除) コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Locate Volume (ボリュームの検出)



選択したボリュームに関連したすべてのディスクの青い LED を点灯させます。

1. 検出するボリュームを選択します。
2. **Locate Volume (ボリュームの検出)** コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Stop Locate Volume (ボリュームの検出の停止)



選択したボリュームに関連したディスクを物理的に検出する青い LED を消灯します。

1. 検出を停止するボリュームを選択します。
2. **Stop Locate (検出の停止)** コマンドをクリックします。

DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Stop Locate All (すべての検出の停止)



ボリュームに関連したすべてのディスクを物理的に検出する、すべての青い LED を消灯します。

- Stop Locate All (すべての検出の停止) コマンドをクリックします。

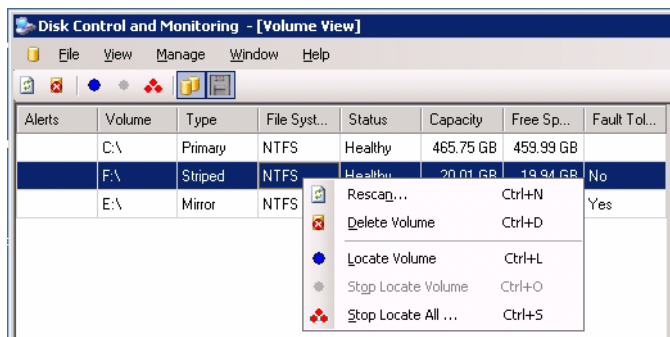
DCM は以下の操作を実行します。

- Disk Volume (ディスクボリューム) および Drive Map (ドライブマップ) パネルをアップデートします。
- ディスク情報を自動的に再スキャンしてアップデートします。

Volume View (ボリュームビュー) の右クリック Manage (管理) メニュー

下図のように、Manage (管理) メニュー項目は、選択したディスク上で右クリックすることによっても呼び出すことができます。

図 9-17 Volume View (ボリュームビュー) の右クリック Manage (管理) メニュー



Window (ウィンドウ) メニュー

Window (ウィンドウ) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-18 Volume View (ボリュームビュー) の Window (ウィンドウ) メニュー

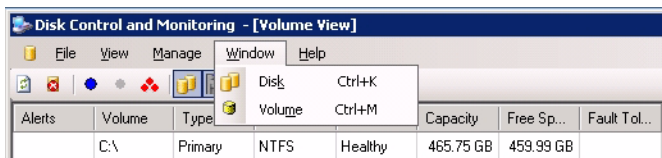


表 9-10 Volume View (ボリュームビュー) の Window (ウィンドウ) メニューの説明

メニュー項目	コマンドの説明
Disk (ディスク)	Disk View (ディスクビュー) ドキュメントの表示
Volume (ボリューム)	Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントの表示

Help (ヘルプ) メニュー

Help (ヘルプ) メニューには以下のコマンドがあります。

図 9-19 Volume View (ボリュームビュー) の Help (ヘルプ) メニュー

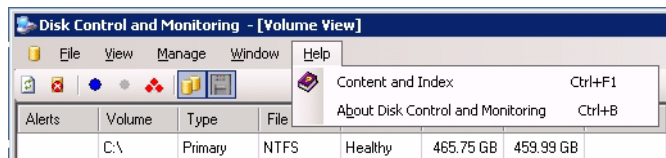


表 9-11 Volume View (ボリュームビュー) の Help (ヘルプ) メニューの説明

メニュー項目	コマンドの説明
ヘルプ	Contents and Index (目次と索引) はヘルプの目次を表示します
About SUN Control and Monitoring (SUN Control and Monitoring について)	アプリケーションの現在のバージョンを表示します

制御されていないディスクの挿入および削除

DCM は、ディスクの削除および挿入の自動検出をサポートしています。(制御されていない) ディスクが削除または挿入されると、そのディスクが検出されて、DCM で表示されます。

DCM 遠隔クライアントのインストール

遠隔クライアント (CLI) は、DCM の Disk View (ディスクビュー) および Volume View (ボリュームビュー) ドキュメントで表示される情報を取得する方法です。

DCM 遠隔クライアントを使用する前に

1. 以下のダウンロードサイトから、Microsoft .NET Framework 2.0 をダウンロードしてインストールします。

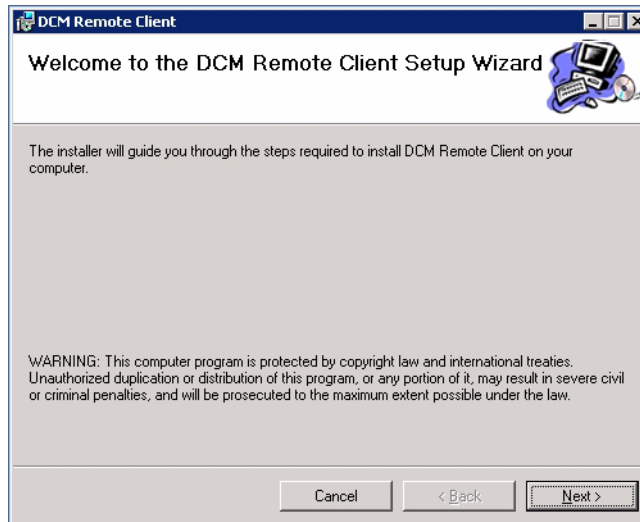
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=0856EACB-4362-4B0D-8EDD-AAB15C5E04F5&displaylang=en>

2. DCMRemoteSetup1.0.1.msi ファイルを遠隔マシンにコピーして、管理者としてインストールします。ダブルクリックしてインストールウィザードを起動します。

DCM 遠隔クライアントウィザードセットアップ

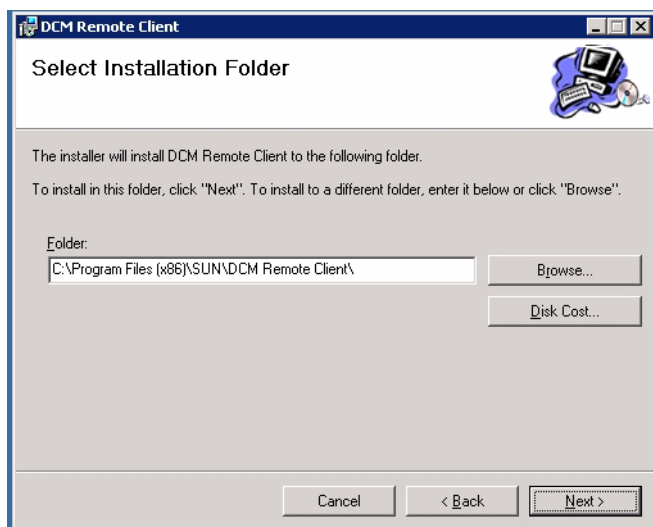
1. DCM Remote Client Setup Wizard (DCM 遠隔クライアントセットアップウィザード) に従って、コンピュータに DCM 遠隔クライアントをインストールするのに必要な手順を実行します。

図 9-20 DCM 遠隔クライアント - インストールフォルダの選択



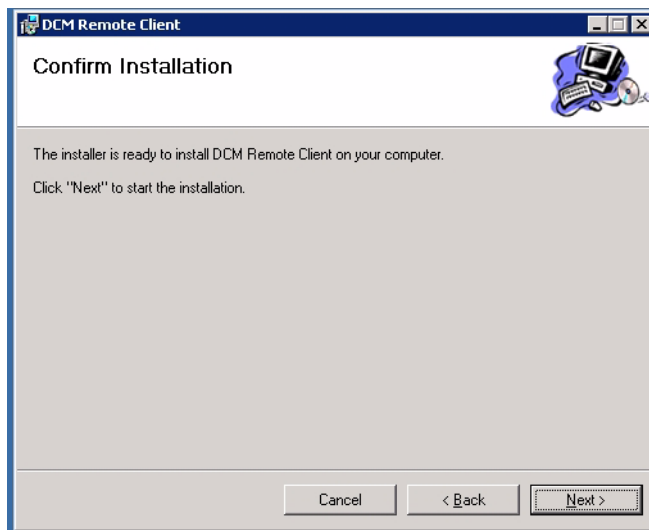
2 DCM 遠隔クライアントをインストールするフォルダを選択します。

図 9-21 DCM 遠隔クライアントウィザードセットアップウィザード



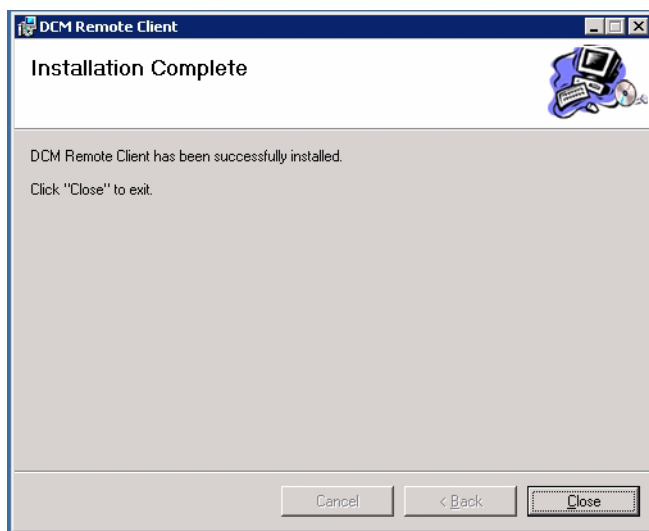
3. インストールを確認します。DCM 遠隔クライアントウィザードで、インストールの完了が確認されます。

図 9-22 DCM 遠隔クライアント – インストールの完了



4. これでインストールは完了です。ウィンドウを閉じます。

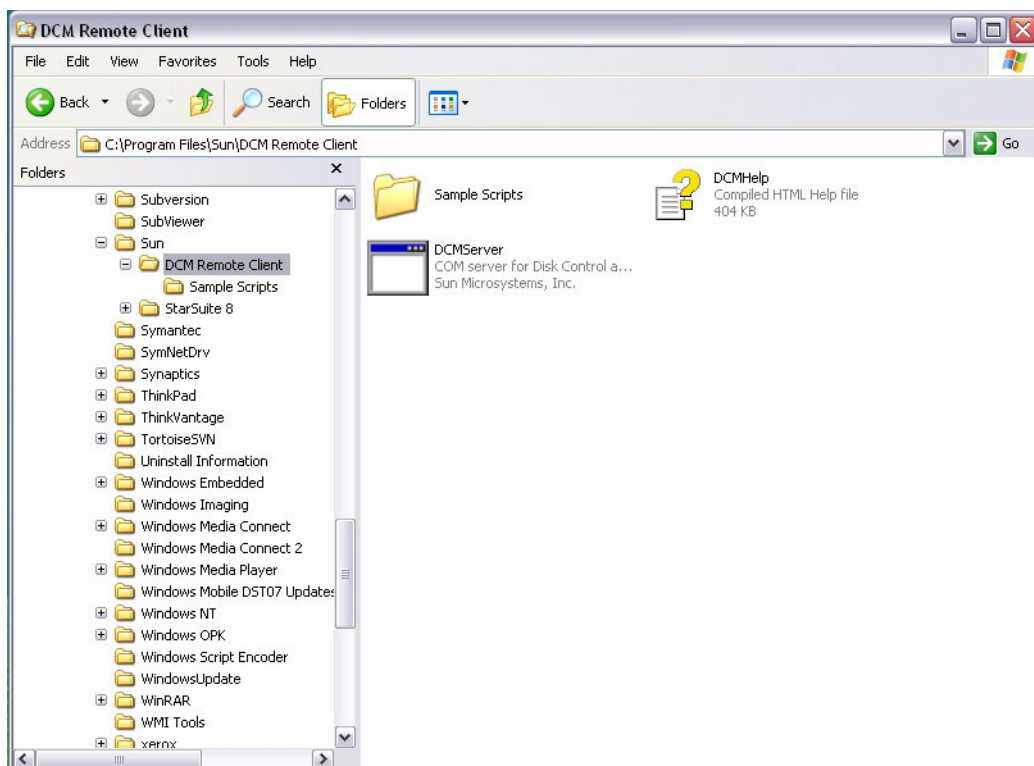
図 9-23 DCM 遠隔クライアントのインストールの確認



遠隔クライアントのサンプルスクリプト

DCM 遠隔クライアントのサンプルスクリプトは、DCM Remote Client フォルダ内の C:\Program Files\Sun\DCM Remote Client\Sample Scripts に格納されています。

図 9-24 DCM Remote Client フォルダ



各サンプルスクリプトの変更

Sun Fire X4500 のホスト名で、各スクリプトの以下の行を変更する必要があります。

```
Set DCMService = CreateObject ("DCM.DCMSERVICE", "Server  
Machine Name")
```

ここで、「Server Machine Name」は、ご使用の Sun Fire X4500 サーバーのホスト名です。

▼ リモートスクリプトを実行するには

リモートスクリプトを実行するには、Windows の `runas` コマンドを使用します。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
runas /netonly /user:Administrator "cmd.exe /K cscript c:\progra~1\SUN\DCMREM~1\SAMPLE~1\scriptname.vbs"
```

ここで、`script name.vbs` は、実行するリモートスクリプトの名前です。

画面に以下の出力が表示されます。

```
Enter the password for Administrator: (管理者のパスワードを入力してください:)
```

1. Sun Fire X4500 管理者のパスワードを入力します。
2. 改行キーまたは `Enter` を押します。

画面に以下の出力が表示されます。

```
Attempting to start cmd.exe /K cscript c:\progra~1\SUN\DCMREM~1\SAMPLE~1\Disklist.vbs as user "ORION\Administrator" ...
```

新しいコマンドウィンドウが開き、スクリプトの結果が表示されます。

DCM リモートサンプルスクリプト

注 – 各 Create スクリプトは、使用前に変更する必要があります。

表 9-12 DCM リモートサンプルスクリプトの使用法

スクリプト名	使用法
Add Disk.vbs	未割り当て (または) 基本 (または) 外部ディスクを動的バックに追加します。 使用法 : AddDisk.vbs <DiskIndex>
CreateMirrorVol.vbs	ミラー化ボリュームを作成します。 使用法 : CreateMirrorVol.vbs <Create> 以下の入力値を変更します。 <ol style="list-style-type: none">1. Server Machine Name をご使用の遠隔マシン名に変更します。2. ディスク索引を「13」、「14」から使用するディスクのディスク索引に変更します。DiskList.vbs を使用して、ディスク索引を取得できます。また、ディスクサイズを、「1073741824」からご使用のディスクのサイズに変更します。3. accessPath を「J:」から NTFS のドライブ文字または空のフォルダに変更します。4. 「DCMTestMirror」をボリュームに付ける任意の名前に変更します。
CreateRAID-5Vol.vbs	RAID-5Vol を作成します。 使用法 : CreateRAID-5Vol.vbs <Create> 以下の入力値を変更します。 <ol style="list-style-type: none">1. Server Machine Name をご使用の遠隔マシン名に変更します。2. ディスク索引を「20」、「21」、「22」から使用するディスクのディスク索引に変更します。DiskList.vbs を使用して、ディスク索引を取得できます。また、ディスクサイズを、「1073741824」からご使用のディスクのサイズに変更します。3. accessPath を「I:」から NTFS のドライブ文字または空のフォルダに変更します。4. 「DCMTestRAID-5」をボリュームに付ける任意の名前に変更します。

表 9-12 DCM リモートサンプルスクリプトの使用法 (続き)

スクリプト名	使用法
CreateSimpleVol.vbs	<p>シンプルボリュームを作成します。</p> <p>使用法: CreateSimpleVol.vbs <Create> 以下の入力値を変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Server Machine Name をご使用の遠隔マシン名に変更します。 2. ディスク索引を「15」から使用するディスクのディスク索引に変更します。DiskList.vbs を使用して、ディスク索引を取得できます。また、ディスクサイズを、「1073741824」からご使用のディスクのサイズに変更します。 3. accessPath を「L:」から NTFS のドライブ文字または空のフォルダに変更します。 4. 「DCMTestSimple」をボリュームに付ける任意の名前に変更します。
CreateSpannedVol.vbs	<p>スパンボリュームを作成します。</p> <p>使用法: CreateSpannedVol.vbs <Create> 以下の入力値を変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Server Machine Name」をご使用の遠隔マシン名に変更します。 2. ディスク索引を「16」、「17」、「18」から使用するディスクのディスク索引に変更します。DiskList.vbs を使用して、ディスク索引を取得できます。また、ディスクサイズを、「1073741824」からご使用のディスクのサイズに変更します。 3. accessPath を「K:」から NTFS のドライブ文字または空のフォルダに変更します。 4. 「DCMTestSpanned」をボリュームに付ける任意の名前に変更します。
CreateStripedVol.vbs	<p>ストライプボリュームを作成します。</p> <p>使用法: CreateStripedVol.vbs <Create> 以下の入力値を変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Server Machine Name をご使用の遠隔マシン名に変更します。 2. ディスク索引を「16」、「17」、「18」から使用するディスクのディスク索引に変更します。DiskList.vbs を使用して、ディスク索引を取得できます。また、ディスクサイズを、「1073741824」からご使用のディスクのサイズに変更します。 3. accessPath を「H:」から NTFS のドライブ文字または空のフォルダに変更します。 4. 「DCMTestStriped」をボリュームに付ける任意の名前に変更します。
DiskList.vbs	<p>すべてのディスク索引、ディスク番号、およびスロット番号をリストします。</p> <p>使用法: DiskList.vbs</p>

表 9-12 DCM リモートサンプルスクリプトの使用法 (続き)

スクリプト名	使用法
LocateDisk.vbs	ディスクを検出します。 使用法: LocateDisk.vbs <Disk Index> <start/stop/stopAll>
RemoveDisk.vbs	現在の動的パックからディスクを削除します。 使用法: RemoveDisk.vbs <Disk Index>
VolumeList.vbs	すべての使用可能なボリュームをリストします。

DCM クラス

Disk Control and Monitoring (DCM) は、Sun Fire X4500 サーバーのディスクに対するクエリー、設定、および保守を行うメソッドを公開するクラスを提供しています。下表は、使用可能なクラスのリストです。

表 9-13 DCM クラス

クラス	説明
CDCMService	ディスクオブジェクトおよびボリュームオブジェクトを初期化して生成する DCM サービス。
CDCMDisk	ディスクに対してクエリーおよび設定を行うメソッドを提供するクラス。
CDCMBasicDisk	基本ディスクを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMDynamicDisk	動的ディスクを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMForeignDisk	外部ディスクを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMUninitializedDisk	未割り当てディスクを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMDiskFRUInfo	ディスク FRU 情報を取得するメソッドを提供するクラス。
CDCMDiskExtent	ディスク上のエクステンツの詳細を取得するメソッドを提供するクラス。
CDCMVolume	ボリュームに対してクエリーおよび設定を行うメソッドを提供するクラス。
CDCMBasicVolume	基本ボリュームを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMDynamicVolume	動的ボリュームを設定するメソッドを提供するクラス。
CDCMVolumeExtent	ボリュームの拡張の詳細を取得するメソッドを提供するクラス。
CDCMCreateVolumeIntf	ボリュームを作成するメソッドを提供するクラス。

CDCMService

方法	説明
getNumDisk	ディスク数を返します。
getDisk	索引に対応したディスクを返します。
getNumVolume	ボリューム数を返します。
getVolume	ボリューム番号に対応したボリュームを返します。
init	サービスを初期化します。
scan	変更がないかをスキャンします。
scan	指定したスロットのディスクオブジェクトを返します。
getSlotLEDStatus	指定したスロットの LED ステータスを返します。
getStatusChange	ステータスの変更を取得します。

getNumDisk

```
ULONG getNumDisk(void);
```

このメソッドは、DCM サービスで使用可能なディスクオブジェクトの数を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスク数を返します。

getDisk

```
CDCMDisk getDisk(ULONG DiskIx);
```

このメソッドは、指定した索引のディスクオブジェクトを返します。

パラメータ

DiskIx

[in] DCM サービスのディスク索引。

戻り値

指定した索引のディスクオブジェクトを返します。

getNumVolume

```
ULONG getNumVolume(void);
```

このメソッドは、DCM サービスで使用可能なボリュームオブジェクトの数を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

DCM サービスで使用可能なボリュームの数を返します。

getVolume

```
CDCMVolume getVolume(ULONG VolNum);
```

このメソッドは、指定したボリューム番号のボリュームオブジェクトを返します。

パラメータ

VolNum

[in] DCM サービスの内部ボリューム番号。

戻り値

指定した番号のボリュームオブジェクトを返します。

init

```
ULONG init(void);
```

このメソッドは、DCM サービスを初期化します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

初期化が成功した場合は 0、それ以外の場合は -1 を返します。

scan

```
ULONG scan(void);
```

このメソッドは、変更がないかをスキャンして、すべてのディスクオブジェクトとボリュームオブジェクトを生成します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

スキャン操作が成功すると 0、それ以外の場合は -1 を返します。

getDiskAtSlot

```
ULONG getDiskAtSlot(  
    ULONG SlotNum  
);
```

このメソッドは、指定したスロット番号の内部ディスク索引を返します。

パラメータ

SlotNum

[in] 物理ディスクのスロット番号。

戻り値

指定したスロット番号のディスク索引を返します。

getSlotLEDStatus

```
ULONG getSlotLEDStatus(  
    ULONG SlotNum  
);
```

このメソッドは、スロットの LED ステータスを返します。

パラメータ

SlotNum

[in] ディスクのスロット番号。

戻り値

指定したスロット番号の LED ステータスを返します。

LED ステータス	Value (値)
Ready (作動可能)	1
Fault (障害)	2
OK To Remove (削除して OK)	4

getStatusChange

```
ULONG getStatusChange(void);
```

このメソッドは、最後のイベントタイプを返します。ディスクがシステムから削除された場合は 1 を返します。ディスクがシステムに追加された場合は 2 を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

最後のイベントタイプを返します。

CDCMDisk

方法	説明
getDiskNum	ディスクのディスク番号を返します。
getPhysicalLocation	ディスクの物理的な場所を返します。
getCapacity	ディスクのサイズを返します。
getStatus	ディスクの現在のステータスを返します。
getType	ディスクのタイプを返します。
getUnallocated	ディスクの未割り当てのサイズを返します。
locate	LED を点滅させてディスクを検出します。
getFRU	ディスクの FRU を返します。
getBMCFRU	BMC に格納された FRU 情報を返します。
getDiskImp	ディスク実装インタフェースを返します。
getNumExtent	ディスクの拡張数を返します。
getExtent	索引に対応した拡張を返します。
syncFRU	FRU 情報を同期します。
getPartitionType	ディスクのパーティションタイプを返します。
getDiskGUID	ディスクの GUID を返します。

getDiskNum

```
ULONG getDiskNum(void);
```

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、Windows のディスク番号を返します。Windows のディスク番号が存在しない場合は、100 以上の値が返されます。

getPhysicalLocation

```
BSTR getPhysicalLocation(void);
```

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、ドライブベイ/スロット番号のストリングを返します。スロット番号が存在しない場合には、ストリング「-」が返されます。

getCapacity

```
ULONGLONG getCapacity(void);
```

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、ディスクの合計サイズを返します。

getStatus

```
ULONG getStatus(void);
```

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、物理ディスクの可用性を返します。ディスクは、含んでいるバックがオフラインを返しても、オンラインステータスを返すことがあります。

ディスクステータス

ディスクステータス	Value (値)
オンライン	1
Not Ready (準備できていない)	2
No Media (メディアなし)	3
Failed (障害)	4
Missing (欠落)	5

getType

```
ULONG getType(void);
```

ディスクのタイプを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、ディスクのタイプを返します。

ディスクタイプ	Value (値)
Basic (基本)	0
Dynamic (動的)	1
Foreign (外部)	2
Unallocated (未割り当て)	3

getUnallocated

```
ULONGLONG getUnallocated(void);
```

ディスクで使用可能な未割り当ての容量。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、ディスクの未割り当ての容量を返します。

locate

```
HRESULT locate(  
    ULONG flag  
);
```

パラメータ

flag

[in] ディスクの検出を開始するのか停止するのかを示す値。値が 1 の場合、DCM はディスクの検出を開始します。値が 0 の場合、DCM はディスクの検出を停止します。

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

getFRU

```
CDCMDiskFRUInfo getFRU(void);
```

このメソッドは、ディスク FRU 情報オブジェクト CDCMDiskFRUInfo を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスク FRU 情報オブジェクトを返します。

getBMCFRU

```
CDCMDiskFRUInfo getBMCFRU(void);
```

このメソッドは、ディスクの BMC (Baseboard Management Controller) に格納された FRU 情報をフェッチします。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

BMC に格納された FRU 情報を返します。

getDiskImp

```
CDCMDisk getDiskImp(void);
```

このメソッドは、ディスクタイプに基づいて、ディスク実装オブジェクトを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクタイプに基づいて、以下のいずれかのディスクオブジェクトを返します。

CDCMBasicDisk

CDCMDynamicDisk

CDCMUnallocatedDisk

CDCMForeignDisk

getNumExtent

```
ULONG getNumExtent(void);
```

このメソッドは、ディスクの拡張の数を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスク拡張数を返します。

getExtent

```
CDCMDiskExtent getExtent(  
    ULONG ExtentIx  
);
```

このメソッドは、指定した索引のディスク拡張オブジェクト (CDCMDiskExtent) を返します。

パラメータ

ExtentIx

[in] ディスク拡張の索引。

戻り値

ディスク拡張オブジェクトを返します。

syncFRU

```
HRESULT syncFRU();
```

このメソッドは、BMC 内のディスク FRU 情報を同期します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値S_OK および E_FAIL を返します。

getPartitionType

```
ULONG getPartitionType(void);
```

このメソッドは、ディスクのパーティションタイプを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクのパーティションタイプを返します。

パーティションスタイル	Value (値)
MBR (マスターブートレコード)	0
GPT (GUID パーティションテーブル)	1
不明	2

getDiskGUID

```
GUID getDiskGUID(void);
```

このメソッドは、ディスクの GUID を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクの GUID を返します。

CDCMBasicDisk

方法	説明
add	オンラインパックに基本ディスクを追加します。

add

```
HRESULT add (void)
```

Add メソッドは、動的オンラインパックに基本ディスクを追加します。基本ディスクを動的ディスクに変換します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

CDCMDynamicDisk

方法	説明
<code>remove</code>	障害が発生しつつあるディスクまたは発生したディスクを再アクティブ化します。
<code>reactivate</code>	障害が発生しつつあるディスクまたは発生したディスクを再アクティブ化します。

remove

```
HRESULT remove();
```

このメソッドは、オンライン動的パックからディスクを削除します。動的パックからの削除後は、ディスクは基本ディスクになります。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

reactivate

```
HRESULT reactivate();
```

`reactivate` メソッドは、障害が発生しつつあるディスクまたは発生したディスクを可能な限り正常な状態に戻します。このメソッドは、ディスクを正常な状態に戻そうとはしますが、常に成功するわけではありません。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

CDCMForeignDisk

方法	説明
<code>importToPack</code>	オンライン動的バックにディスクをインポートします。

`importToPack`

オンライン動的バックにディスクをインポートします。

```
HRESULT importToPack();
```

このメソッドは、同じバックまたはディスクグループのすべてのディスクをオンライン動的バックにインポートします。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

CDCMUninitializedDisk

方法	説明
<code>add</code>	バックに追加します。

add

```
HRESULT add();
```

add メソッドは、オンライン動的バックにディスクを追加します。このメソッドは、パーティションが定義されていないディスクを初期化して、バックに追加します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

CDCMDiskFRUInfo

方法	説明
vendor	ベンダースtringを返します。
model	モデルを返します。
serialNum	シリアル番号を返します。
FWVersion	FW バージョンを返します。
capacity	容量を返します。

vendor

```
BSTR vendor(void);
```

このメソッドは、ディスクのベンダーの名前Stringを返します。ベンダー ID のないデバイスの場合は、値はゼロになります。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ベンダーの名前ストリングを返します。

model

```
BSTR model(void);
```

このメソッドは、ディスクのモデルを返します。モデルストリングがないデバイスの場合、値はゼロになります。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクのモデルを返します。

serialNum

```
BSTR serialNum(void);
```

このメソッドは、ディスクのシリアル番号を返します。シリアル番号のないデバイスの場合は、値はゼロになります。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクのシリアル番号を返します。

FWVersion

```
BSTR FWVersion(void);
```

このメソッドは、ディスクのファームウェアバージョンを返します。製品改訂がないデバイスの場合、値はゼロになります。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ファームウェアバージョンを返します。

capacity

```
BSTR capacity(void);
```

このメソッドは、ディスクの容量をバイト数で返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクの容量をバイト数で返します。

CDCMDiskExtent

方法	説明
getVolumeNum	この拡張のボリューム番号を返します。
getOffset	このディスク拡張のオフセットを返します。
getSize	拡張のサイズを返します。

getVolumeNum

```
ULONG getVolumeNum(void);
```

このメソッドは、内部ボリューム番号を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

内部ボリューム番号を返します。

getOffset

```
ULONGLONG getOffset(void);
```

このメソッドは、ディスクのオフセットを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスクのオフセットを返します。

getSize

```
ULONGLONG getSize(void);
```

このメソッドは、拡張のサイズをバイト数で返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

拡張のサイズを返します。

CDCMVolume

方法	説明
getType	ボリュームのタイプを返します。
getPath	パスストリングを返します。
getFileSystem	ファイルシステムタイプを返します。
getStatus	ボリュームのステータスを返します。
getSize	ボリュームのサイズを返します。
getFreeSpace	ボリュームの空き容量を返します。
getNumExtent	ボリュームの拡張数を返します。
getExtent	索引に対応した拡張を返します。
getVolumeImp	ベースとなるボリュームを返します。
getVolumeGUID	ボリュームの GUID を返します。
getHealth	ボリュームの健全性を返します。

getType

```
LONG getType(void);
```

このメソッドは、ボリュームのタイプを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームのタイプを返します。

ボリュームタイプ	Value (値)
Basic (基本)	0
Dynamic (動的)	1

getPath

```
BSTR getPath(void);
```

このメソッドは、ボリュームのパスを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームのパスを返します。

getFileSystem

```
ULONG getFileSystem(void);
```

このメソッドは、ファイルシステムタイプを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ファイルシステムタイプを返します。

ボリュームステータス	Value (値)
不明	0
オンライン	1
No Media (メディアなし)	2
Failed (障害)	3

getStatus

```
ULONG getStatus(void);
```

このメソッドは、ボリュームのステータスを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームのステータスを返します。

ボリュームステータス	Value (値)
不明	0
オンライン	1
No Media (メディアなし)	2
Failed (障害)	3

getSize

```
ULONGLONG getSize(void);
```

このメソッドは、ボリュームのサイズを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームのサイズを返します。

getFreeSpace

```
ULONGLONG getFreeSpace(void);
```

このメソッドは、ボリュームで使用可能な空き容量を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームで使用可能な空き容量を返します。

getNumExtent

```
ULONG getNumExtent(void);
```

このメソッドは、ボリュームで使用可能な拡張の数を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームで使用可能な拡張数を返します。

getExtent

```
CDCMVolumeExtent getExtent(  
    ULONG ix,  
);
```

このメソッドはボリューム拡張オブジェクトを返します。

パラメータ

ix

[in] ディスク拡張の索引。

戻り値

ボリューム拡張オブジェクトを返します。

getVolumeImp

```
CDCMVolume getVolumeImp(void);
```

このメソッドは、ベースとなるボリュームの実装を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ベースとなるボリュームの実装を返します。とり得るボリュームオブジェクトタイプは以下のとおりです。

CDCMBasicVolume

CDCMDynamicVolume

getVolumeGUID

```
BSTR getVolumeGUID(void);
```

このメソッドは、ボリュームの GUID を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームの GUID を返します。

getHealth

```
ULONG getHealth(void);
```

このメソッドは、ボリュームオブジェクトの健全性を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームオブジェクトの健全性を返します。

健全性	Value (値)
不明	0
健全	1
再構築中	2
失効	3
障害が発生しつつある	4
冗長性の障害が発生しつつある	5
冗長性の障害が発生	6
冗長性の障害が発生しつつあるが、発生した	7
Failed (障害)	8

CDCMBasicVolume

方法	説明
<code>getPartitionType</code>	パーティションタイプを返します。

getPartitionType

```
ULONG getPartitionType(void);
```

このメソッドは、ボリュームのパーティションタイプを返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、ボリュームのパーティションタイプを返します。

パーティションスタイル	Value (値)
MBR (マスターブートレコード)	0
GPT (GUID パーティションテーブル)	1
不明	2

CDCMDynamicVolume

ボリュームタイプを返します。

方法	説明
<code>getVolumeType</code>	ボリュームタイプを返します。
<code>isFaultTolerant</code>	耐障害性がある場合は 1 を返します。
<code>IsOnline</code>	ボリュームがオンラインパック内にあるかどうかを返します。
<code>deleteVolume</code>	現在のボリュームを削除します。

getVolumeType

```
ULONG getVolumeType(void);
```

このメソッドは、ボリュームタイプを返します。

ボリュームタイプ	Value (値)
シンプル	0
スパン	1
ストライプ化	2
ミラー化	3
RAID-5	4
不明	5

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームタイプを返します。

isFaultTolerant

```
ULONG isFaultTolerant(void);
```

このメソッドは、ボリュームが耐障害性を備えているかどうかを返します。耐障害性を備えている場合は 1 を、それ以外の場合は 0 を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームが耐障害性を備えているかどうかを返します。

IsOnline

```
ULONG IsOnline(void);
```

このメソッドは、ボリュームがオンラインパック内にあるかどうかを返します。オンラインパック内にある場合は 1 を、それ以外の場合は 0 を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ボリュームがオンラインパック内にあるかどうかを返します。

deleteVolume

```
HRESULT deleteVolume();
```

システムからボリュームを削除します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

CDCMVolumeExtent

メソッド (方法) の説明

方法	説明
getDisk	ディスクを返します。
getSize	メソッド <code>getSize</code>

getDisk

```
LONG getDisk(void);
```

このメソッドは、DCM 内部ディスク番号を返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

ディスク番号を返します。

getSize

```
ULONGLONG getSize(void);
```

このメソッドは、拡張のサイズをバイト数で返します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

拡張のサイズを返します。

CDCMCreateVolumeIntf

メソッド (方法) の説明

方法	説明
addAccessPath	新しいボリュームにアクセスパスを追加します。
addInputDisk	新しいボリュームの入力ディスクパラメータを追加します。
create	新しいボリュームを作成します。
init	ボリュームの作成インタフェースを初期化します。
setFormatInfo	新しいボリュームをフォーマットするパラメータを設定します。

addAccessPath

```
HRESULT addAccessPath(  
    BSTR accessPath  
);
```

アクセスパスを追加します。アクセスパスには、空のフォルダのパスまたはドライブ文字を指定することができます。

パラメータ

`accessPath`

[in] アクセスパスを示すストリング。アクセスパスをドライブ文字にする場合は、末尾にバックスラッシュを含める必要があります(例: E:\)。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

addInputDisk

```
HRESULT addInputDisk(  
    ULONG diskIx,  
    ULONGLONGT diskSize  
);
```

入力ディスクパラメータを追加します。N 個のディスクパラメータを追加する場合は、このメソッドを N 回呼び出す必要があります。

パラメータ

diskIx

[in] ディスクの索引の値。

diskSize

[in] ディスクのサイズ (バイト数)。

戻り値

このメソッドは、標準値 `S_OK` (0x00000000L) および `E_FAIL` (0x80004005L) を返します。

create

```
HRESULT create(  
    LONG volumeType  
);
```

指定されたタイプのボリュームを作成します。

パラメータ

volumeType

[in] ボリュームタイプは、シンプル、スパン、ストライプ化 (RAID-0)、ミラー化、およびパリティ付きストライプ化 (RAID-5) です。

ボリュームタイプ	Value (値)
シンプル	10
スパン	11
ストライプ化	12
ミラー化	13
RAID-5	14

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

init

HRESULT init()

ボリュームの作成インタフェースを初期化します。

パラメータ

このメソッドはパラメータをとりません。

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

setFormatInfo

```
HRESULT setFormatInfo(  
    LONG fileType,  
    BSTR volumeLabel,  
    ULONG allocationUnitSize,  
    LONG force,  
    LONG quickFormat,  
    LONG enableCompression  
);
```

setFormatInfo メソッドは、現在のボリュームのファイルシステムをフォーマットするための属性を指定します。

パラメータ

fileSystemType

[in] ファイルシステムタイプ。

ファイルシステムタイプ

ファイルシステムタイプ	Value (値)
RAW	1
FAT	2
FAT32	3
NTFS	4
CDFS	5
UDF	6

volumeLabel

[in] ファイルシステムラベルを表すストリング。

allocationUnitSize

[in] ファイルシステムの割り当て単位のサイズ (バイト数)。通常は、512 から 65536 の値。

force

[in] 値が 1 の場合、ファイルシステムは、使用中であっても無条件でフォーマットされます。それ以外の場合は、操作が失敗します。

quickFormat

[in] 値が 1 の場合、DCM はクイックフォーマットを実行します (ボリュームをセクタごとに検証しません)。

enableCompression

[in] 値が 1 の場合、新しくフォーマットされたファイルシステムで圧縮が有効化されます。圧縮は、NTFS の機能であり、FAT および FAT32 では無視されます。

戻り値

このメソッドは、標準値 S_OK (0x00000000L) および E_FAIL (0x80004005L) を返します。

索引

D

DCM

- CDCMBasicDisk, 106
- CDCMBasicVolume, 119
- CDCMCreateVolumeIntf, 123
- CDCMDisk, 99
- CDCMDiskExtent, 111
- CDCMDiskFRUInfo, 109
- CDCMDynamicDisk, 107
- CDCMDynamicVolume, 119
- CDCMForeignDisk, 108
- CDCMService, 95
- CDCMUnInitializedDisk, 108
- CDCMVolume, 113
- CDCMVolumeExtent, 121
- DCM の起動, 62
- Disk View (ディスクビュー) のコマンド, 69
- Volume View (ボリュームビュー) のコマンド, 80
- クラス, 94
- ついて, 62
- ディスク FRU 情報, 66
- ディスクステータス, 65
- ディスクの追加, 72
- プリインストール要件, 38
- ボリューム情報, 65
- リモートサンプルスクリプト、使用法, 92
- 遠隔クライアント, 86
- 遠隔クライアントスクリプト、インストール, 86
- 概要, 62
- 基本ディスク, 64

起動, 62

警告, 64

情報の表示, 64

制御されていないディスクの挿入および削除, 86

動的ディスク, 64

動的ディスクの削除, 75

Disk Control and Monitoring (DCM), 61

I

IPMITool、使用要件, 51

J

JavaRConsole

システムの設定, 21

システム要件, 22

セットアップ手順, 22

JaveRConsole を使用した遠隔サーバーコンソール
のリダイレクション, 21

S

SIA を使用した補助付きインストール, 2

Sun Installation Assistant (SIA)

メディアおよびアップデート, 4

最新バージョンの取得, 4

W

Windows メディア

CD イメージのリダイレクション, 26

CD-ROM のリダイレクション, 26

インストールの準備, 11
Windows メディア、取得方法, 2
Windows インストールの準備, 1
Windows、サポートされているバージョン, 3

あ

アイコン、DCM, 66
アップデート
SIA の, 4
ドライバの, 4

い

イメージファイル
Windows での作成, 19
インストール (SIA) CD/DVD, 4
インストールの選択, 2
インストール方法、補助付きまたは手動, 2
インストール用のドライバおよび Windows メディアを取得する方法, 2

お

Windows インストールの準備, 1
オペレーティングシステムのインストール
手順, 28
大容量記憶装置ドライバの準備, 9
要件, 27
Windows メディアの準備, 11
ガイドライン, 2

か

ガイドライン、オペレーティングシステムのインストール, 2

さ

サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード, 7
サポートされている Windows のバージョン, 3

し

システムの設定、JavaRConsole, 21
システム固有ドライバ
アップデート, 39
状態変更機能

オプションおよびパラメータ, 64

た

大容量記憶装置ドライバ
フロッピーディスクのリダイレクション, 26
フロッピーイメージのリダイレクション, 26
イメージファイルのコピー, 18
Windows の使用, 19
インストールの準備, 9
フロッピーディスクの作成
Windows の使用, 14

て

手順、オペレーティングシステムのインストール, 28
デバイスドライバ
アップデート, 4

と

ドキュメント
フィードバック, xiii
ドライバ
システム固有ドライバのアップデート, 39
ダウンロードするサイト, 7
ダウンロード手順, 7
大容量記憶装置ドライバ
取得方法の選択, 9
ドライバおよび Windows メディアへの遠隔コンソールのリダイレクション, 21
ドライバ、取得方法, 2

ひ

表記上の規則, xii

ふ

フロッピーディスクの作成
Windows の使用, 14

よ

要件、オペレーティングシステムのインストール, 27

り

リモートインストールサービス (RIS)

 ドライバの追加, 58

 必要なドライバ, 55

